

特256

279

1934



所議會互商山園



始



特256
279



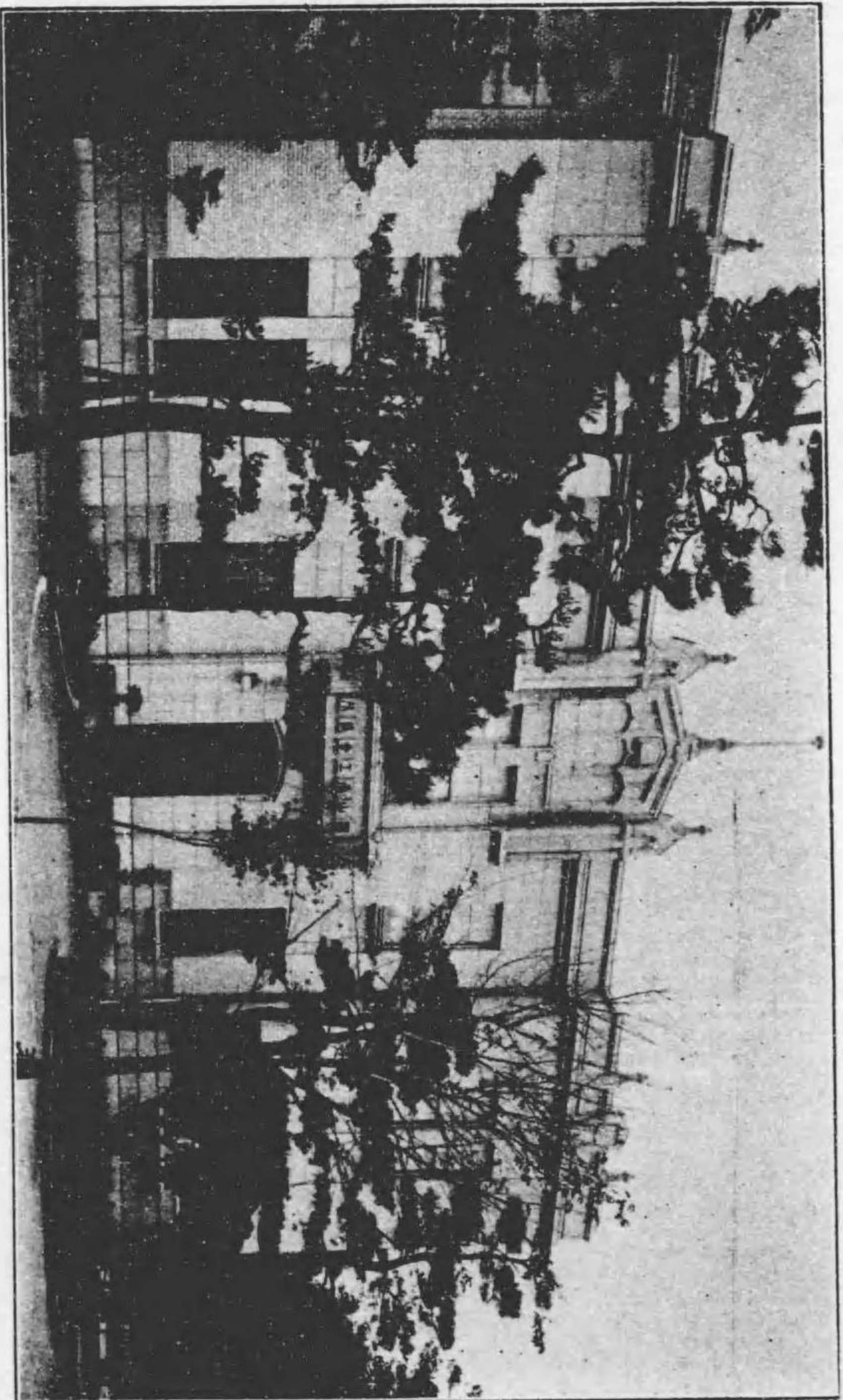
題 言

本書題して「とやま」と云ふ、主として富山市に於ける商工業の案内に重きを置いたのは、専ら當業者の利便に供せんが爲めである
而かも富山市には商工業に關する事項の外に紹介すべきことがある、之を一括して雑俎となし、更に名所舊蹟を附記することとした
本書の記事は、力めて最新と精確を期したが所務匆忙の際極めて短日時に編纂したので遺漏あるを免かれない、豫じめ讀者の諒恕を請ふ

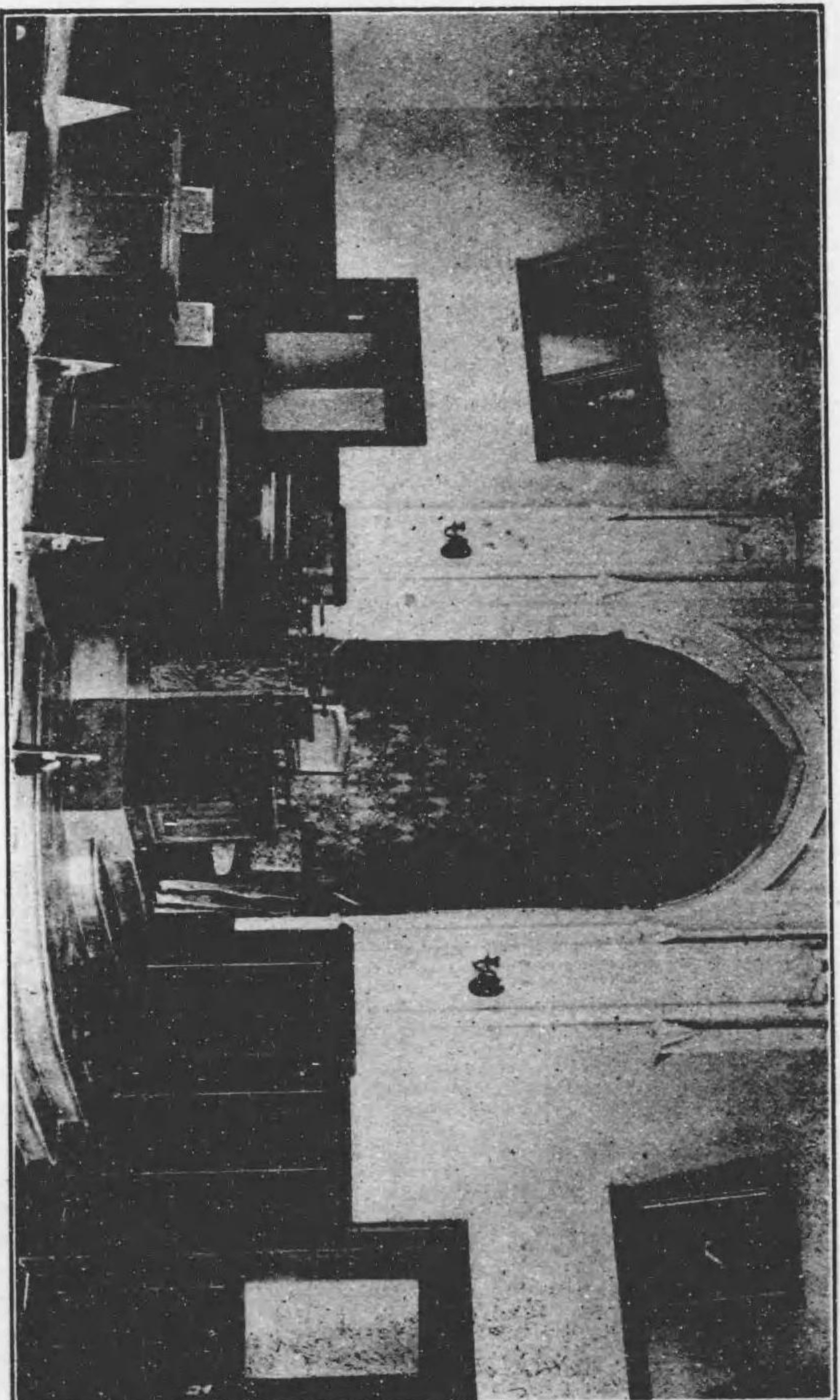
昭和九年十月

編 者 識

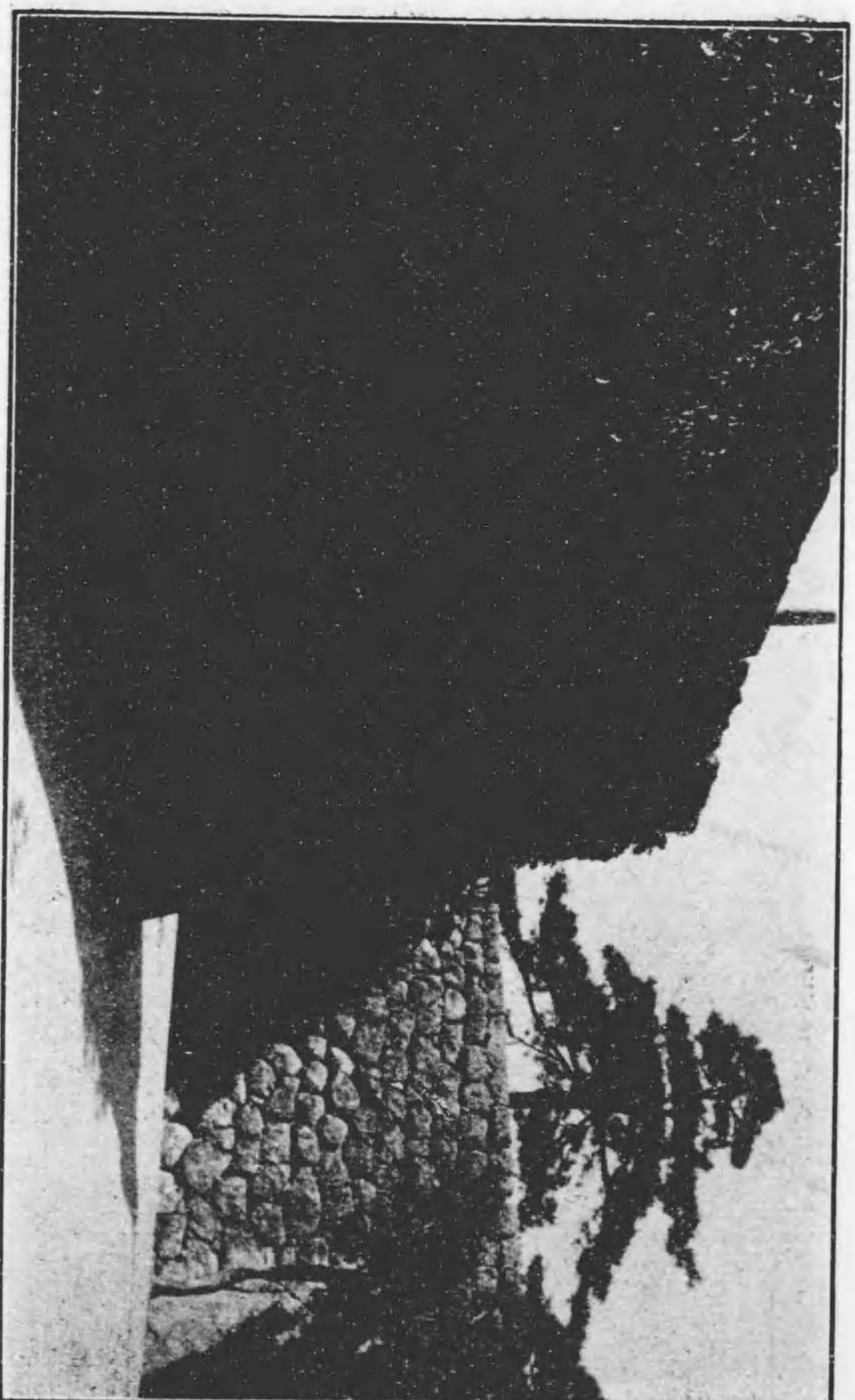




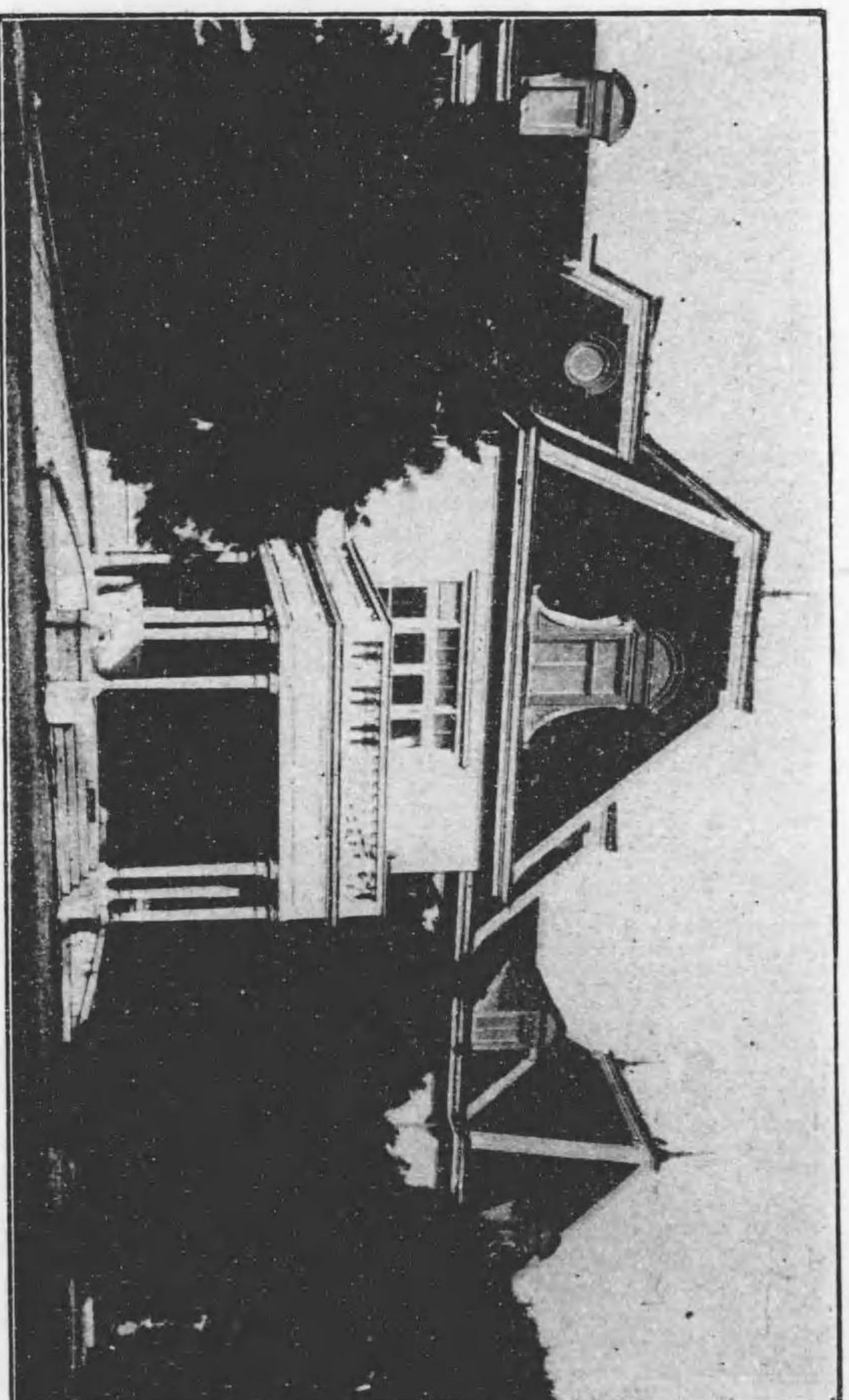
富山工商會所



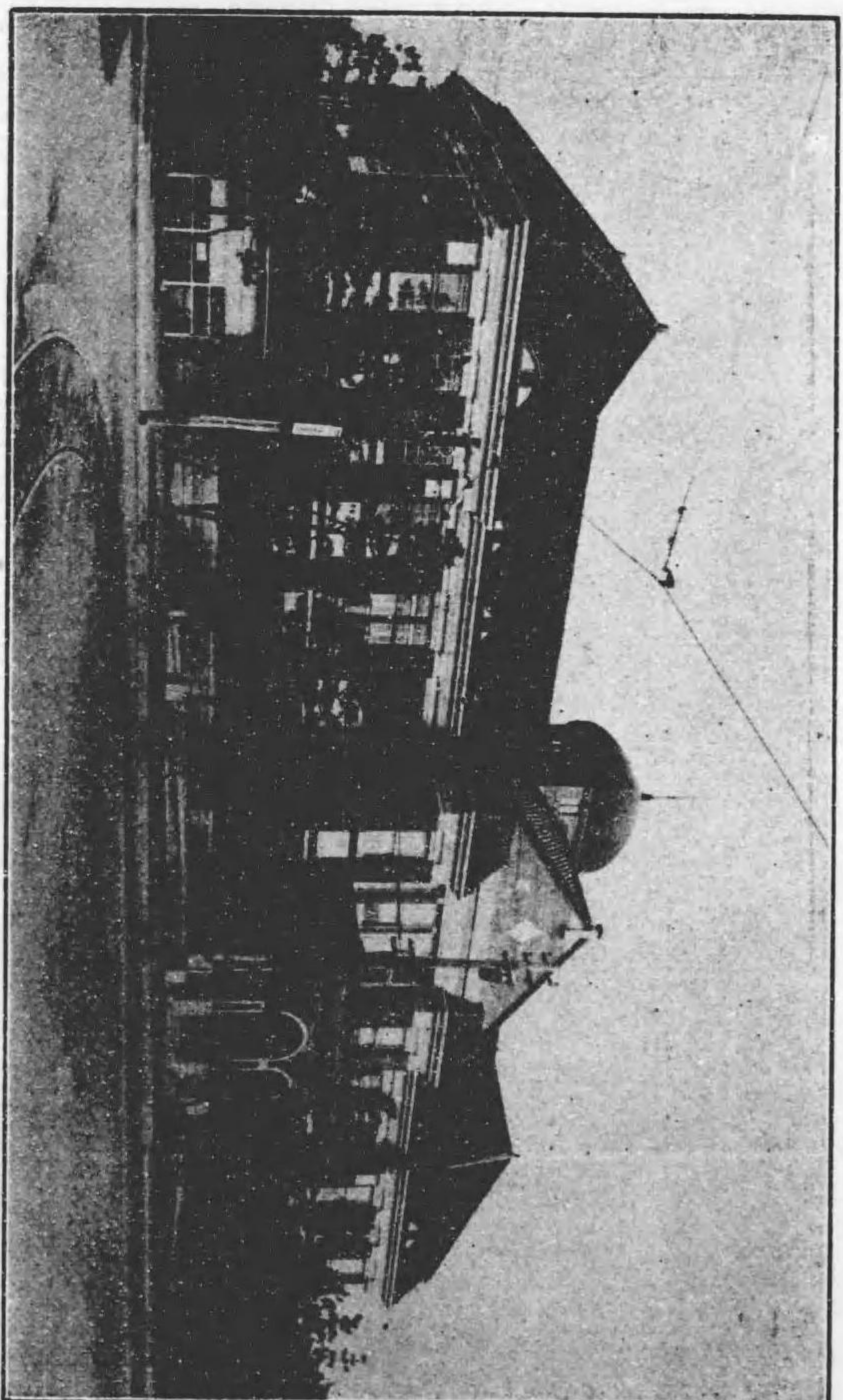
富山工商會所議室



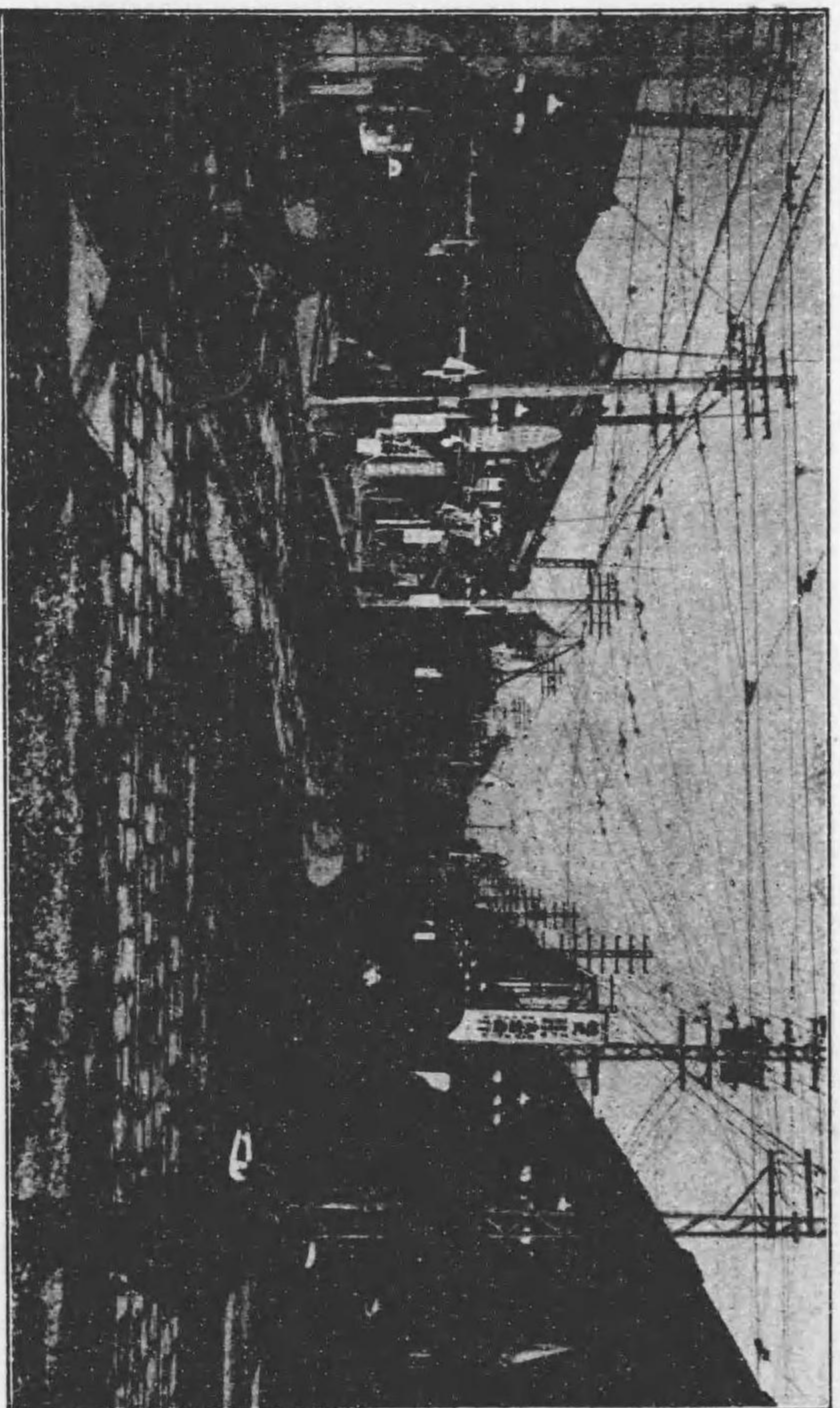
富山城址



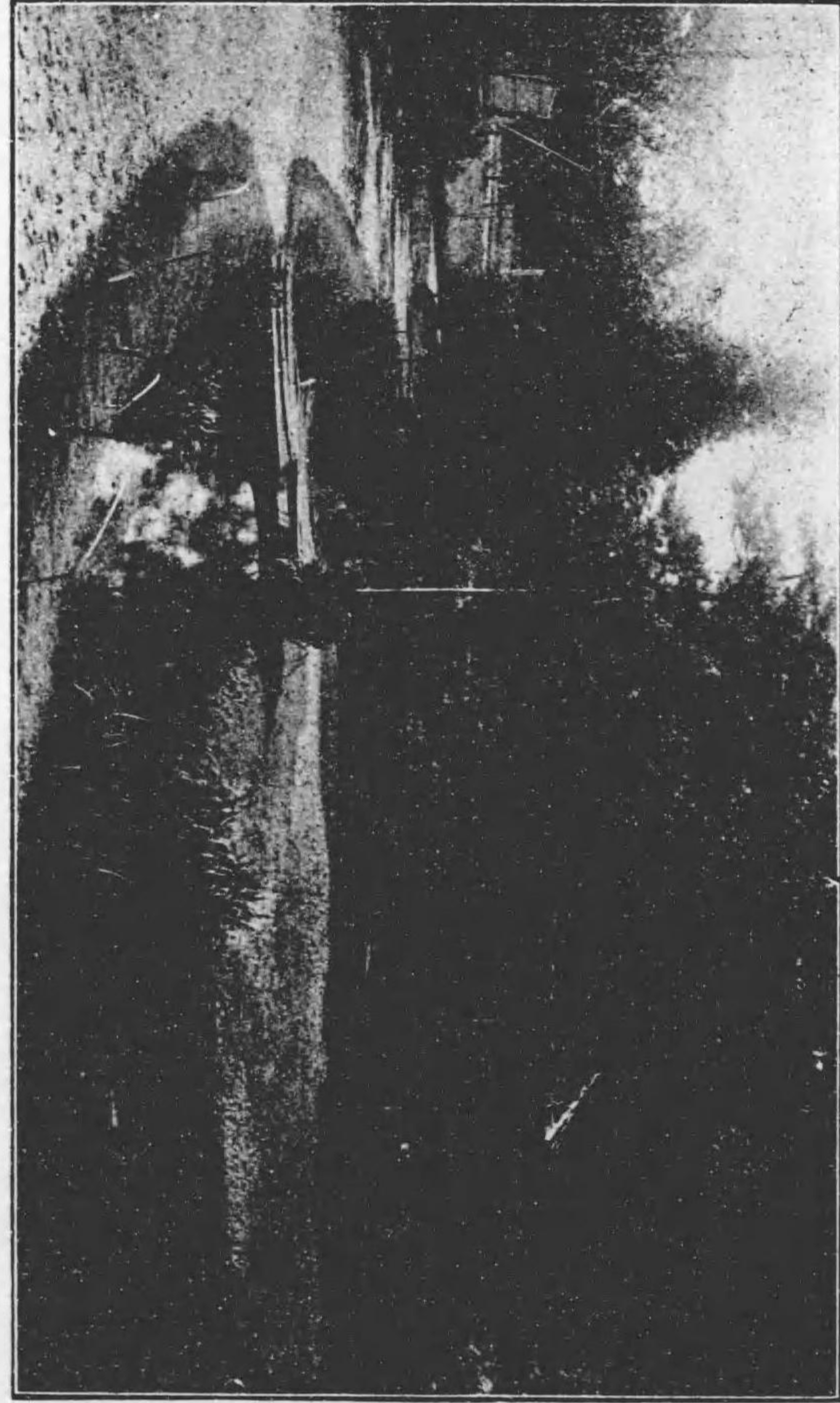
富山縣會議事堂



富山役所



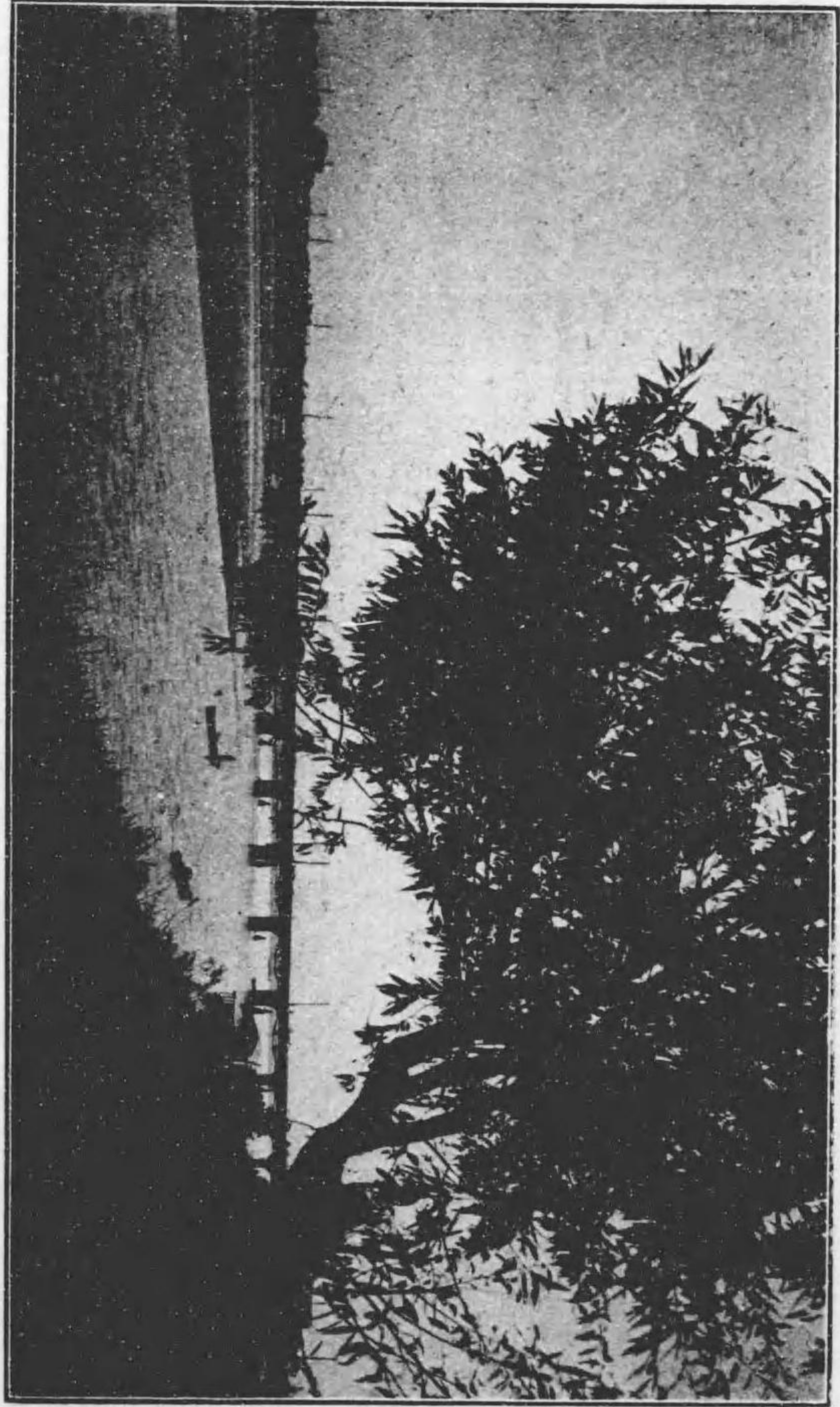
富山市街



吳 羽 山 公 園



商 店 街



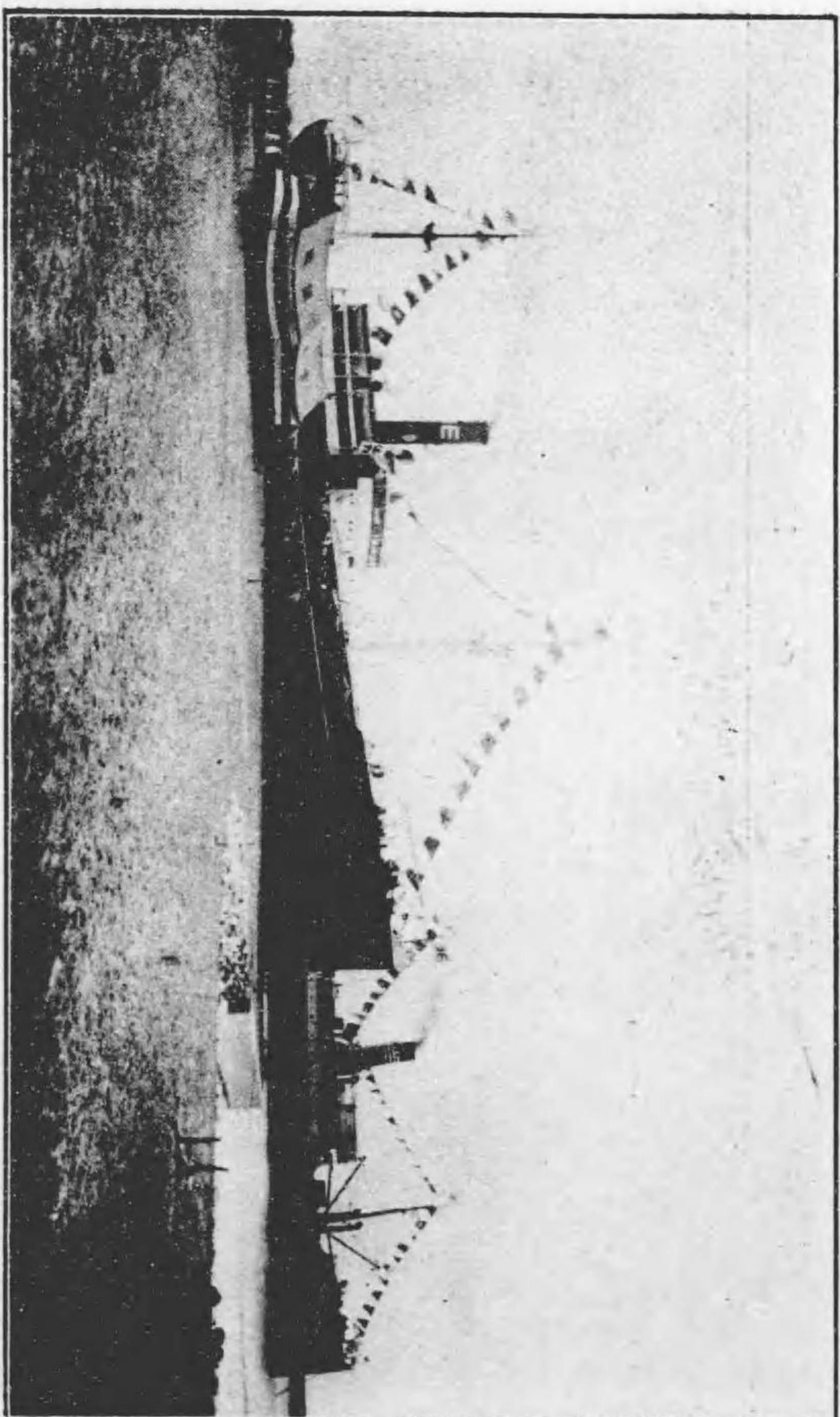
川 通 神



櫻 の 部 磯

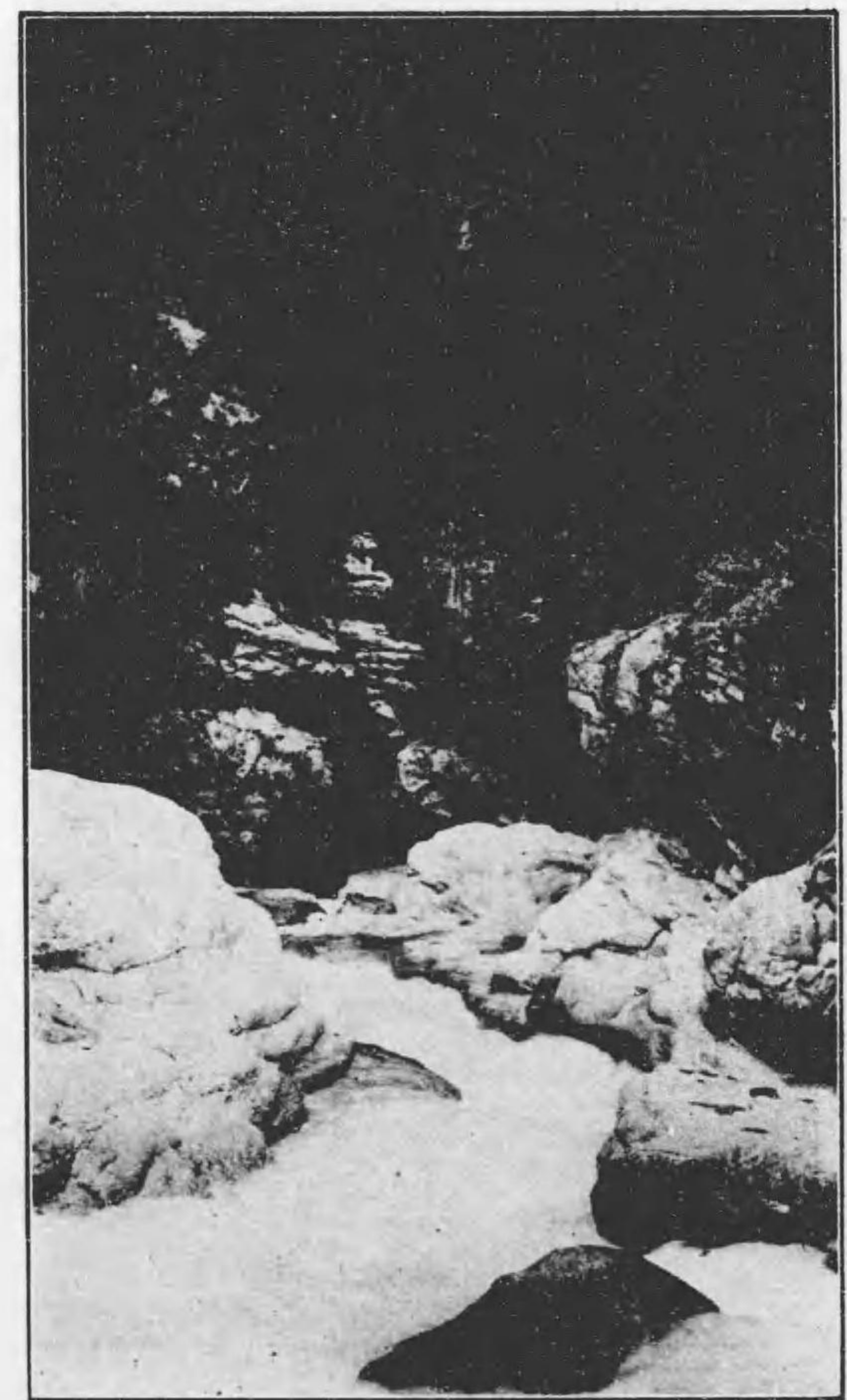
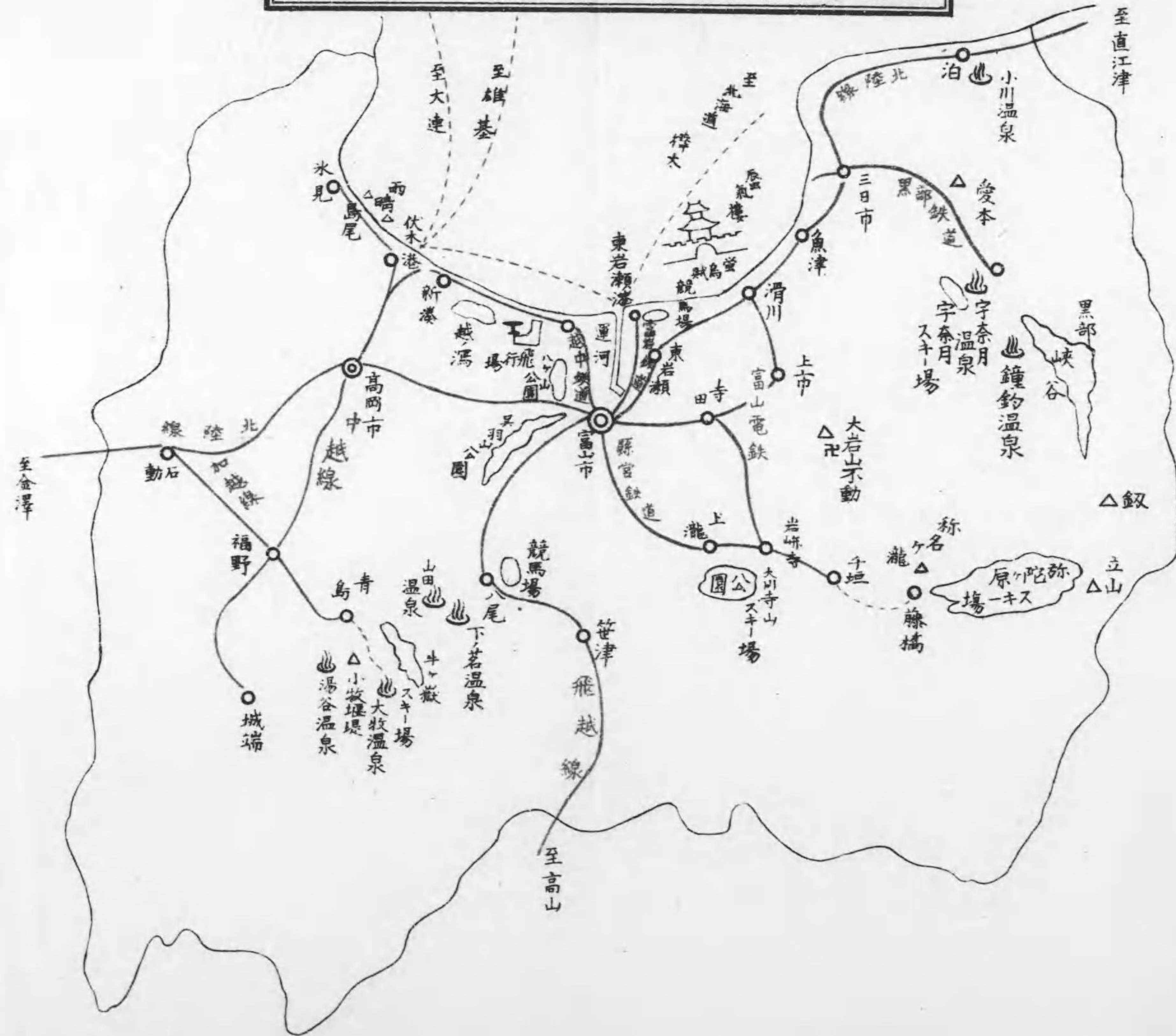


山 立



港 瀨 岩 東

富山縣觀光交通略圖



黑部峽谷



富士市ヨリ観光各地ニ至ル所要時間表

名 稱	所要時間	摘 要
吳羽山公園	十五分	市電又ハ乗合ニテ至ル
八ヶ山遊園	十五分	越中鐵道新富山又ハ富山北口驛ヨリ八ヶ山驛下車
富山飛行場	二十五分	同 富山飛行場驛下車若ハハイヤニテ至ル
岩 瀨 港 (海水浴場)	三十分	富山驛ヨリ富岩鐵道終點下車
富山競馬場 (海水浴場 濱黒崎)	三十分	省線濱黒崎驛下車乗合ニテ至ル
螢 氣 樓	四十五分	省線魚津驛下車乗合ニテ至ル
螢 烏 賊	三十分	省線滑川驛又ハ富山電氣鐵道滑川驛下車
八尾競馬場 (小原節本場)	五十分	飛越線八尾驛下車又ハ乗合ニテ至ル
大 岩 山 (不動瀧)	四十五分	富山電氣鐵道富山驛ヨリ同線上市驛下車乗合ニテ至ル

稱名ヶ瀨	二時間半	縣營鐵道南富山驛ヨリ終點千垣驛下車乗合ニテ至ル
愛本	一時間半	省線三日市驛ニテ黒部鐵道ニ乗替愛本驛下車
黒谷峽谷(猿飛)	四時間	省線三日市驛ニテ黒部鐵道乗替宇奈月驛下車徒歩二時間ニテ至ル
伏木港	一時間十分	越中鐵道新富山又ハ富山北口驛ヨリ新伏木港驛下車乗合ニテ至ル
雨晴	一時間半	高岡驛ニテ中越線ニ乗替雨晴驛下車
島尾	一時間 四十分	同 島尾驛下車
小牧堰堤	二時間	中越線福野驛ヨリ加越線乗替青島驛下車乗合ニテ至ル
大牧温泉	二時間半	小牧堰堤下ヨリ船ニテ至ル
山田温泉	一時間半	富山市ヨリ乗合ニテ至ル又ハ飛越線八尾驛下車乗合ニテ至ル
下ノ茗温泉	一時間半	飛越線八尾驛下車自動車ニテ至ル
宇奈月温泉	二時間	省線三日市驛ヨリ黒部鐵道乗替宇奈月驛下車
鐘釣温泉	三時間	同上宇奈月驛ヨリ軌道ニテ約一時間

小川温泉	一時間半	省線泊驛下車乗合ニテ至ル
立山	二日間	縣營鐵道南富山驛ヨリ千垣ニテ軌道ニ乗替藤橋下車弘法茶屋泊……頂上ヲ極メ室堂泊
劔嶽	二日間	同上藤橋下車別山小屋泊……同上小屋ヨリ頂上ヲ極メ同小屋泊
白馬山	二日間	黒部鐵道宇奈月驛下車祖母谷温泉泊……白馬頂上小屋
彌陀ヶ原(スキー場)	八時間	南富山驛ヨリ千垣驛ニテ軌道ニ乗替藤橋下車スキーニテ六時間ニテ弘法茶屋ニ至ル
宇奈月(スキー場)	二時間半	黒部鐵道宇奈月驛下車徒歩三十分ニテ至ル
大川寺山公園(スキー場)	三十五分	縣營鐵道南富山驛ヨリ公園下車
牛ヶ嶽(スキー場)	二時間	富山市ヨリ乗合ニテ山田温泉ニ至リ夫ヨリ徒歩

とやま目次

口 繪

富山商工會議所、同會議室、富山城址、富山縣會議事堂、富山市役所、
富山市街、同商店街、吳羽山公園、神通川、磯部堤の櫻、東岩瀨港、
立山、黒部谿谷

富山縣觀光交通略圖

富山市より觀光各地に至る所要時間表

市

勢……………一
概説、沿革、面積、戸口、氣象

都市計畫

概説、街路築設、運河開設、土地整理……………五

富岩運河	七
東岩瀨港	一〇
業	一二
概説、生産額、工産物、郊外の工業、工場、主要物産、水力電氣	二七
商	二七
概説、會議所、陳列所、銀行、會社、市場、商工團體、職業別戶口、納稅者、物價貸金	三三
融	三八
概説、銀行、手形交換、貯金爲替、信用組合、信託會社、無盡會社、質屋	四三
通	四三
概説、空路、陸路、海路、鐵路、電車、自動車、諸車	五〇
信	五〇

雜	五三
概説、郵便、電信、電話、保險、年金、印紙切手	五三
組	五三
市政、財政、議員、教育、新聞、兵事、社寺、社會、警備、衛生、電燈	五三
瓦斯、法曹、興行場、旅人宿、料理店、貸座敷、藝妓、カフェー、民謡	五三
童謡	五三
名勝舊蹟	六二
附錄	六二
銀行會社工場及官公衙、諸團體等一覽表	六二
市街圖	六二

とやま



遠く太刀の連峰を負ひ、近く神通の長流を帯ぶる富山市は、晋時前田氏の城下であつて、現今富山縣の首府である、其の位置は越中國の中央より稍や北方に當り、東經一三七度十二分、北緯三六度四二分に在つて、其の東南は上新川郡に隣り、西北は婦負郡に接し、神通川は市の西北方を環り、東岩瀬港に至つて富山灣に注ぐのである。

市内には官署あり、兵營あり、學校あり、銀行あり、會社あり、工場あり、加ふるに人家軒を列ね、店舗臺を並べて街衢最も殷賑を極めつつある、道路平坦で四通八達し電車、乗合自動車縦横に走つて居る、殊に富山は青森、下關間の中間、北陸線と飛越線の分岐點たる要衝に在りて、交通運輸の至便は旅客の往復頻繁に、貨物の集散大なるものあり、更に近年郊外耕地の變して商工業地帯、或は殷賑繁華の蒼々化し新市街を形成するの狀勢益々熾烈なるものがある、加ふるに無限の發電力を擁して近時著しく勃興し來れる本縣電氣事業は、富山市及び其の附近を以て電力消化の中心地たら

むこし、近く都市計畫事業として完成を見た富岩運河の開鑿、神通廢川地の埋立は、東岩瀬港の修築、飛越鐵道の全通と相俟て將來に於ける市の發展は蓋し今日に倍蓰するを期待し得らるのである。

【沿革】 富山市は古へ藤居山と云ひ、其の庄を藤居庄、其の邑を藤井村と稱した傳うる所では、村内に眞言宗の一寺あつて藤居山富山寺(現今の古蹟 治町富山寺)と云つたが其の寺號を取つて富山と名づけたのであると、又富山とは田地方の別名で、往昔より西田地方を富山とも號し、東西田地方に各神明社があつて富山の土地神であると云ふことだが共に確的な徵證を認められない、富山城は

天文元年(四〇三)越中の土豪水越前守勝重の經始に成り、同十四年神保越中守光氏富山城に入り威を新川、婦負の兩郡に振ひ、永祿元年(三七七)以後上杉謙信屢々富山城を攻め竟に之を陥れ、天正六年(三五六)織田信長の將齋藤新五富山城を取り、同七年織田信長、佐々成政を越中の守護職として富山城に移らしめたが、同十五年豊臣秀吉成政を肥後國に封し、其の所領新川郡は、假に前田利家に管せしめ、文祿四年(三三〇)之を益封す、是に於て越中一圓全く前田氏の領有に歸した、即ち利家は加越能百萬石の藩祖である、慶長二年(三三八)其の世子利長守山城より富山城に遷り、同十年封を弟利常

(2)

に讓つて高岡城に轉じ、寛永十七年(一六四〇)利常婦負新川の采地十萬石を割き之を次子利次に與へ分封した、利次は即ち富山の藩祖である。

爾來歴代十三世正甫、利興、利隆、利幸、利興、利久、利謙、利幹、利保、利友、利聲、利同に及び、二百三十年を経て明治四年の廢藩置縣となつた、當時市は富山縣に屬したが、同年更に廢縣となつて新川縣を魚津町に置かれ、同六年縣廳を舊富山城内に移轉せられたが、同九年新川縣を廢して石川縣に併せ、其の支廳を富山に置かれ、同十六年石川縣を割いて再び富山縣を置き縣廳を富山に設置せられ、市も亦再び其の

所管となつた、此の間屢區劃に變更があり更に上新川郡及び婦負郡の一部に屬して戸長役場の所管となり、同二十二年富山附近の上新川郡九箇村並に婦負郡内の二箇村を併せ市制を施行せられて富山市と稱し市役所を總曲輪に設けて全市を管轄し、爾來同三十四年、同四十二年、同四十四年及大正六年、同九年、同十五年の六回に涉り附近の接續村落を併せて市區を擴張し、尙ほ同十三年には都市計畫法の指定あり、以て今日の市勢を見るに至つたのである。

【面積】 富山市は百一箇町から成り其の面積一三、二七八七平方杆(〇・八六)即ち四百一萬七千八十一坪、周圍二五杆六二

(3)

(六里二八)で、廣表は東西七軒二七(一里三〇)南
北四軒九一(九町)である。

【戸口】 富山市に於ける戸口は市勢の進展に伴ひ逐年増加の趨勢にあり、昭和八年末現住戸數一萬八千三百七戸、人口八萬九千四百七人、一戸當四人八八で、更に人口の密度を見ると一方軒に付六人七三二であるが、今現住人口を性別に見ると男四萬四千四百九十三人、女四萬四千九百十四人で女が男より四百二十一人多い。

【氣象】 氣候は概して温和、花は四月に開きて稻は十月に實る、雨水の多きは秋冬の季で、梅雨の節之に亞ぎ、降雪は數月に及ぶことあれど、降霜は數十日を出な

い、只だ春夏の交に於て時として南風の吹き荒みて砂塵を捲き起すことがある、昭和八年中の氣温は最高攝氏三八度、最低零下六度六である。(4)

都市計畫

概 説

富山市に都市計畫法の施行せられたのは大正十三年六月で、計畫區域は同十五年四月内閣の認可あり、同年十月市街地建築物法を適用せられたが、其の都市計畫區域は婦負郡神明、上新川郡堀川(一)山室(一)新庄、奥田、廣田(一)豊田、大廣田、東岩瀬の九箇町村を抱擁し、此の總面積一千六百六萬一千七十坪に上り、現在の富山市面積四百一萬七千八十一坪の四倍強である、而して本縣の重大懸案として多年論議討究さ

れた、富山市中央部を貫通し三十餘萬坪の彪大なる面積を有する元神通廢川敷地處分は富山都市計畫上に緊密なる干繋あるに鑑み、將來産業都市としての發展を期すへき方途たる商工業地造成の土地區劃整理、都市計畫街路の一部新造、公園敷地の構成、富岩運河開設の富山都市計畫並に事業の決定を見、之が第一期事業は昭和三年度より同九年度に至る七ヶ年繼續、事業費總額參百六拾萬圓を以て其の財源を區劃整理の土地賣却代金及富山市よりの寄附金を以てする財政計畫の下に縣の手に依り着手し、即ち昭和九年十月を以て竣功を告げたのである、更に第二期事業計畫が目下立案されて(5)

居るが、今其の第一期事業の概要を摘記すると左の如くである。

【街路築設】 神通川廢川處分に伴ふ部分の土地區劃整理に關係ある路線に付富山都市計畫事業街路新設擴築として認可を得た計劃路線三十五線の内第一期に屬する一等大路第三類(十三區)三路線、此の延長約七百十間、二等大路第一類(十四區)四路線此の延長約一千九十七間、合計七路線、總延長約千八百七間で、一等大路第三類の富山驛前線、富山驛根塚線、櫻町太郎丸線の三路線は、即ち富山驛頭を主眼に區劃整理の廢川地を中心とした都市計畫幹線街路で、驛頭の面目を一新するに至つた。

地を造成し、更に土地の區劃を整理して以て都市將來の發展に備ふるもので、其の施行面積三十五萬三千四百坪内建築敷地十九萬六千七百坪を工業地域、商業地域、住居地域に區劃した外船溜地に二萬二千八百坪引込線敷地に四千七百坪、道路敷地に六萬七千五百坪、水路敷地に四萬百坪、公園敷地に二萬千六百坪を充當したものである、斯て建築敷地内の一部には敷地六千三百餘坪、總工費百貳拾萬圓の縣廳舎が新築工事中有である外、其の附近には産業會館、武徳會演武場、警察署、消防屯所及總曲輪小學校等々が新築又は移轉集注されることになつて居り、更に昭和十一年陽春の候を期し

【運河開設】

東岩瀬港と富山とを水路に依り連絡するもので、即ち東岩瀬南端より富山高等學校西側を神通川堤防に沿ふて南走し、次て殆と一直線に奥田村を過ぎ廢川地下流に於ける船溜始點に到達する延長約四千七百五十八米(約三〇六)の閘門式運河で其の掘鑿土砂は主として廢川地埋立に利用し、殘餘は東岩瀬港埋立地に運搬投棄したものである、尙ほ本運河に關する詳細は項を別に收めたから就て一讀を乞ふ。

【土地整理】

土地區劃整理事業は即ち神通川改修の結果生したる面積三十餘萬坪に亘る廢川敷地を前項運河掘鑿に依て得た土砂を利用して埋立て、商工業に適する土

て富山市に開催する日滿産業大博覽會の會場も、此處に新築縣廳舎に隣りて約五萬坪を以て充つるものである、斯くて富山市の中央に一大新市街の現出を見るも遠いことではない。

富岩運河

元來富山市は豊富且低廉なる電力受給地なるを以て之に備ふるに交通運輸の便を以てせは産業都市としての發展は蓋し期して待つべきものがある、而して今や滿洲國家獨立し、吉會線、拉賓線の完通して滿蒙との關係緊密を加へたるの秋、我が富山を分

岐點に太平洋沿岸線と日本海沿岸線とを結ぶ國有鐵道飛越線の開通するあり、一面近く工事完了せむとする神通川の改修は河口の東岩瀬港が一の灣浦を構成するので、之に港灣としての施設が加へられて今や日本海の一良津たるに至つた、而も富山市と東岩瀬とは相距るこゝ遠からず、加之此の間は一帶の平野にして清水の湧出量多く恒風の關係等より工業地域として囑望せらるるので、神通川廢川敷地の整理と相伴ひ兩市町を聯絡する運河を開鑿するは極めて適當の施設たるに鑑み、即ち富山市計畫事業として本運河開鑿工事の認可を得たものである。

本運河は前項都市計畫に於て略述した通り東岩瀬港南端より富山高専學校西側を神通川堤防に沿ふて南走し、次て殆と一直線に奥田村を過ぎ廢川地下流に於ける船溜始點に到達する延長約四千七百五十八米(約三哩)の閘門式運河で、始端より下流更に東岩瀬港内連絡航路として七百二十七米突(約四哩)を浚渫し、其の掘鑿土砂百三十餘萬立方(約三〇五坪)は主として廢川地の埋立に利用し、殘餘は浚渫土砂四萬餘立方米突(約五〇五坪)に東岩瀬港修築埋立地に運搬投棄したもので、本工事は昭和五年六月起工、昭和九年十月竣功を告げた、計畫の概要は左の如くである。

- イ、運河構造 奥田村中島地内の閘門を境とし上流部と下流部に大別す
- (1) 上流部 六十米突九十一種(三三三間水面幅五分)
 - (2) 下流部同 四十二米突三十六種(二三三間三分)
 - (3) 水深 二米(二百噸級船舶通航)
- ロ、中島閘門 閘室及扉共重力式混凝土造
- (1) 幅 員 九米九種(三〇尺)
 - (2) 長 六十米六十種(二〇〇尺)
- ハ、牛島閘門 船溜、松川間に築設、川船の運航に便せしむ
- (1) 幅 員 四米五十種(約一五尺)
 - (2) 有効長 十二米(約四〇尺)
- ニ、放水門 中島閘門の右側に併設放水量を加減す
- ホ、船溜 廢川地下流富山驛の北方に設

- ケ兩側に富山驛引込線敷設を豫定す
- (1) 幅 員 百九米(六〇間)
 - (2) 長 四百五十五米(二五〇間)
 - (3) 面積 約五萬平方米(一〇、〇五〇坪)
- ヘ、給水路 牛島地先神通本川より船溜に至る間を開鑿最大二百個の通水に足る構造とす
- 而して本運河沿線即ち奥田村、大廣田村及東岩瀬町に亘り富岩鐵道以西一帶の工業地域とせらるる平野は實に八十餘萬坪に上り、現に大廣田地内に日滿アルミニウム工場の建設中なるを始め、奥田村等に建設計中大工場亦尠くない、此の一帶の大工場化するの日も遠くなからう。

東岩瀬港

前叙富山市の都市計畫及富岩運河に關聯して東岩瀬港に就き一言するの要がある、本港は富山灣の中央神通川の河口に位する富山市唯一の海門にして、市より北へ僅かに二里、省線鐵道及電車の外今や運河の通ずるありて唇齒輔車の關係を有す、本港は往時帆船時代日本海の要津として繁榮を極め、又神通川の舟運に依つて富山市との間に物資の往復盛んなものあつたが、時勢の變遷は汽船海運の時代となり、殊に秋冬の候波浪は土砂を壓して河口を閉塞し小船の出入にも不便を來すこと尠からず、従つて

出入貨物漸次減少し港勢頓に衰退を見るに至つた、然るに偶々政府に於て神通川改修工事の行はるるに際會したので、之を機會に本港の修築計畫を樹て、即ち大正七年以來第一期、第二期に涉り工費約百貳拾萬圓を投じて防波堤、岸壁、護岸等を竣功し、今や三千噸級の繫船荷役容易となり、北海道、樺太及北鮮の定期航路を有し、更に近く開港場としての指定を見る筈で、尙ほ岸壁の延長、上屋の建設、臨港線の敷設等々の施設が決定されて居る、後方地帯との連絡機關たる富岩運河、飛越線の全通を契機として一大飛躍を爲さんとしつつある、今本港の修築概要を摘記すると左の如くであ

(10)

る。

一、防波堤

イ、東突堤

延 長 三百九十米(約二一四間)

ロ、中央突堤

延 長 三百八十米(二〇九間)

ハ、港

口 幅 員 九米(約三〇尺) 百八十米突(九間)

二、港

城 東西十町、南北二十町約五十萬平方米(約一五萬坪)

三、岸

壁 延長 百十米突(約六〇間) 水深 七米三(約二四尺)にして三千噸級一隻繫留可能

尙現在の岸壁に隣接して同百十米を延長築設することに決定して居る

四、水

深 港口より繫船岸壁前(面積一六萬平方米)は三千噸級を出入し得べく水深七、三米 夫れより港奥(面積三七千平方米)は水深二米に淺渌、引續き奥へ水深一米の淺筋(運河工事の一部)を以て運河々口に至る

五、埋立地 前記淺渌土砂を以て岩瀬町三左衛門川口より舊萩浦橋詰金刀比羅社に向ひ一線を劃したる内面積七五千平方米を同港基準面上二米に埋立て内四八、六〇〇平方米は荷揚場、上屋、鐵道及道路敷地に充つる

六、燈

臺 防波堤突端に建設さる、鐵筋混凝造、高さ十五米で綠色明暗の第五等燈臺、其の光達距離十二哩半

七、臨港線 富岩鐵道高等學校前から分岐して富岩運河に沿ひ臨港線を敷設することになつて居る

(11)

産 業

概 説

我が富山市には往昔より人口に喰ふする反魂丹がある、富山の賣藥か、賣藥の富山かとは夙に全國に喧傳する所で、是れ實に市に於ける唯一の特産である、而して其他の工業に至つては果して如何の特産あるか顧うに藩政の時代に在つては、未だ機械的工業の見るべきものなかつたが、歴代の藩主に依つて盛んに奨勵を加へられた爲め、手工的工業の見るべきものあつた、中にも建具の如き、指物の如き、漆器の如きは、

明治の時代に入つてから嶄然として頭角を現はして來た、且つ時勢の進運は著しく工業の勃興を促がし、絹織物は時に一消一長を免かれなかつたが日に月に發展の傾向を示し、更にシフォンを製作して、能く嗜好に適し流行に投じた爲め、孰れも地方の特産として中外に名聲を博し、販路の擴張と共に斯業の隆盛を見るに至つた、世界戰亂の勃發以後は時局の好況に伴ふて盛んに各種の工場擴張に其の發展測り知られない形勢であつたが、一たび經濟界の反動期に入つてからは忽ち事業を中止し又は廢休する運命に陥つたものもあつた、併し今は自然の淘汰によつて却つて斯界を整理された

觀があるので將來は堅實な發達を期待し得らるゝ、加ふるに我が地方は天然に於て、水利の便を有し電力を起す利がある、況して賃銀は甚だ低廉で多くの職工を使用するに易い、殊に都市計畫による神通廢川地の埋立、富岩運河の開鑿實現は蓋し有数の工業地帯と化するは明かである。

若し夫れ其の他の産業に至つては農産あり、水産あり、畜産、鑛産、林産がある、水産は市内を貫流する神通川の名産魚族及其の加工品を主とし、農産は近年附近村落の併合に依て四百餘町歩の田畑耕地を有し米七千餘石の收穫を擧げて居る。

【生産額】

産業の一斑に就ては、前に

概説した通りであるが、最近二ヶ年間に於ける富山市の生産額種別は左の如く、工産が其の第一位を占むること勿論である。

	昭和七年	昭和八年
農 産	三六、六一	三三、二九
畜 産	四、七三	四六、〇五
林 産	四三	五三
鑛 産	六、〇七	三九、四九
水 産	一四、三六	三三、三七
工 産	三、三五、三三	二、八五、〇一
合 計	三、八七、二六	二、四八、六三

【工産物】 更に主要産業として生産物の首位を占むる工産物の内譯に就て觀るべきは左の如くである。

麻 硝 蠟 和 麵 醬 清 鐵 器 銅 鍋 蹄 双 鉢 鉢 錫
 田 器 燭 紙 類 油 酒 械 材 器 類 鐵 類 物 製 印 製 品

四、六五〇
 一四、三七〇
 四〇、六〇〇
 一、六五〇
 七、一四一
 三、一〇〇
 二、七二〇
 三、五〇〇
 四〇〇
 四〇〇
 七、一〇〇
 二、七〇〇
 一
 一
 一
 八三、〇〇〇

農 金 箔 船 荷 人 馬 自 乳 船 玩 欄 下 鼻 製
 具 品 類 舟 車 車 車 車 車 車 車 具 具 間 歇 足 緒 材

一八、一〇〇
 三、〇〇〇
 一、四〇〇
 四、一〇〇
 二、四〇〇
 一、八〇〇
 六、八〇〇
 六、〇〇〇
 六、八〇〇
 二、八〇〇
 二、五〇〇
 二、五〇〇
 八、九、五〇〇
 一、〇〇〇
 三、九、〇〇〇
 三、五、〇〇〇

種 別 工 產 物 產 額
 賣 藥 計 綿 絹 染 蠶 味 藥 煉 罐 メリヤス 帽
 出 地 內 地 計 織 織 物 物 物 物 物 物 品 詰 子 品 子

昭和七年
 五、九三、〇九六
 一四、一七六
 六、〇四七、七四四
 二、一九八
 四八、九七〇
 二七、三三二
 一、〇八二
 三、三〇〇
 三、八〇〇
 七、七三三
 八、七三三
 三、七三三
 一四、五六六

昭和八年
 六、一三、八四四
 一五、四〇三
 六、二六六、三三七
 一四、〇三五
 七〇、七六一
 二八、七〇四
 三、〇三三
 三、五五〇
 三、九五〇
 四、七九七
 七、七三三
 七、〇二六
 一五、〇九六

陶 磁 漆 皮 植 履 挽 曲 指 箱 桶 木 竹 籐 杞 刷
 器 器 器 品 油 物 (襟地) 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物 品 品 品 品 品 毛

六、三〇〇
 一〇一、〇〇〇
 三、八〇〇
 一四、七〇〇
 六三、八〇〇
 一、九〇〇
 四、〇〇〇
 二四、三〇〇
 三、七〇〇
 一三、六〇〇
 七、〇〇〇
 六、一〇〇
 六、〇〇〇
 七、一〇〇
 七、四六〇

六、三〇〇
 一〇三、一〇〇
 六、四〇〇
 一五、五〇〇
 六三、四〇〇
 二、〇〇〇
 四、〇〇〇
 二四、一〇〇
 三、九〇〇
 一三、九〇〇
 五、一〇〇
 五、四〇〇
 六、五〇〇
 七、三〇〇

屋根板	三、五〇〇	五、〇〇〇
屏風類	四、五〇〇	四、三〇〇
傘	八、〇〇〇	八、五〇〇
洋傘	八〇、〇〇〇	八二、〇〇〇
提灯	三、〇〇〇	三、五〇〇
清涼扇	三、五〇〇	三、八〇〇
扇子及團扇	三〇、〇〇〇	六、〇〇〇
疊	六九、〇〇〇	七三、〇〇〇
ゴム靴	三、五〇〇	三、七〇〇
印刷物	四〇一、〇〇〇	四〇九、五〇〇
寫真	四三、〇〇〇	四、五〇〇
紙製品(合羽ヲ含ム)	五、〇〇〇	四、〇〇〇
紙器	六〇、〇〇〇	六、〇〇〇
造花	三三、〇〇〇	三、〇〇〇
石工品	三八、〇〇〇	三、五〇〇

セメント製品	七、二〇〇	七、九〇〇
化粧品	一三、〇〇〇	一六、〇〇〇
マツチ	—	三、七〇〇
製綿	九〇、〇〇〇	九七、〇〇〇
絲編物	三二、〇〇〇	三〇、五〇〇
洋服外套類	五八、〇〇〇	五三、〇〇〇
ミシン裁縫品	—	五、四〇〇
足袋	五、〇〇〇	五、〇〇〇
菓子	四七、〇〇〇	四六、〇〇〇
菓布製品	六、〇〇〇	六、〇〇〇
餡	元、〇〇〇	四、〇〇〇
麴類	三、五〇〇	三、五〇〇
豆腐	六、八〇〇	七、五〇〇
蒟蒻	七、五〇〇	九、五〇〇
漬物	二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇

清涼飲料水	七、〇〇〇	六、五〇〇
人造水	三、〇〇〇	三、六〇〇
アルミニウム製品	—	六、五〇〇
度量衡器	二〇、九六八	一三、三三三
文房具	七、八〇〇	七、〇〇〇
精漆	七、〇〇〇	三、〇〇〇
鉄	三六、三〇〇	三三、三三〇
マニラロープ	一四、八八四	一五、〇〇〇

【郊外の工業】

尙ほ富山市勢發展の餘勢は自然郊外に延び市を繞る堀川町及山室奥田各村の隣接地は工場等の建設に依り近年著しく發展しつつあり、随つて此等各町村にも亦見るべき工業が尠くない、殊に富山地方は水力電氣の外湿度の關係上紡績に

好適地とせられ、現に山室村清水に本社及工場を有する第一ラミー紡績を始め堀川村に日清紡績、奥田村に大正製麻の各工場があり、尙ほ目下建設計画中の紡績工場もある、其の他主なる工業としては不二越鋼材工業の金切鋸刃、日本曹達及金山電化工業の化學工業藥品等々である。

【工場】

産業の發展に伴うて各種の工場は増加し、今や富山市内に於て工場法の適用を受けて居るものゝみでも昭和九年八月末現在の調査に依るゝ大小七十八を數へ職工の總數二千四百四十七名に上り、其の主なる業種別では製材の十六を筆頭に、打綿の十、印刷の八之に亞き、其他鐵工並燐

接、硝子瓶製造の各七、賣藥製造の五等である、尙ほ近郊堀川、山室、奥田の三箇町村に於ける同工場數三十九、職工數三千二百七十四名を算し、郊外に於ける工業發展の一端が窮はれる、市内及び附近で工場法の適用を受くるものの内十名以上の職工を有する工場は之を別欄に收めた。

【主要物産】 富山市及び附近に於ける工業の概況は前來叙し來つた如くであるが茲に主要物産に就て其の沿革及び現況の梗概を記して紹介する。

【賣藥】 富山賣藥の起源は二代の藩主前田正甫卿の時代に在る、卿夙に衛生を重んじて製藥に志し、惡疫の流行に會へば自ら製劑し

藩廳之れに税金を課し明和元年(一七七一)特に反魂丹役所を設け、奉行以下をして之れを掌らしめたが、弘化三年(一八二二)には其の税額參千五百兩の多きに達したさうだ、而して當時の營業者は別に規約を設け、行商地を二十一組に分けた、其の販賣方法は全く信用取引で、一年毎に藥品を配置し、翌年に至り前年分の代金を集むるのである、是れ店頭賣藥と異なる配置賣藥で、富山特有の商習慣であるのだ其の華主の姓名及び配置の賣藥を記したものを懸場帳と云つてあるが之れが賣買讓與は猶ほ土地建物の如くで、一箇年の賣上高によつて價額を決定するのである、明治維新の後に至り、富山賣藥は更に發展し、一時は六百萬圓の産額、九千餘人の行商を見た、然るに印

て貧民に施した、天和二年(一六八二)備前岡山の醫師萬代淨閑なるもの富山に來り、卿に見えて反魂丹を獻じたが、卿其の靈驗あるを悦び自ら製法を研究し且つ侍臣に傳習せしめたのである、元祿三年(一六八六)卿江戸に在つて幕府に參勤したとき某國主柳營中に於て急に病を發して將さに死に瀕せんとした、正甫卿直ちに印籠中に携へた反魂丹を出して服せしめたが、病忽ち平癒したので、列座の諸侯皆な其の奇効に驚き、爾後汎く諸國に行商せしむるやうに懇請した、正甫卿之れを承引し、歸國の後松井屋源右衛門に調劑せしめ、八重崎屋源六に行商せしめた、是れ即ち富山賣藥の濫觴である、是れより富山賣藥は日に月に隆盛に赴き、其の利益も亦巨額に上つた處から、

紙税規則の發布は當業の大々の打撃であつて頼みに衰運を招いたが、爾來再び其の頹勢を覆へし殊に同業組合の設置に依つて營業上の改善を圖り、又た信用組合の創立に依つて金融上の利便を講じた爲め、今や内地及び臺灣朝鮮は勿論遠く滿洲、支那、印度、南洋諸島露西亞、亞米利加に販賣を擴張し、實に富山の一大特産たるのみでなく、又た富山の一大財源たるに至つた、業界多年の懸案であつた印紙税の廢止は大正十五年度から實施を見るに至つたので、定價の引下げを爲し、且つ之を一轉機に益々内容を改善し其の發展を企圖されて居る、營業者中會社組織に係るものは廣貫堂を始めとし、丸三興業會社、師天堂、富山精壽堂、富山藥劑會社、富山藥業會社、

賣藥盛貫堂、樂山堂製藥、富製藥會社等を主なるものとする。尙ほ昭和三年資本金百萬圓を以て創立された國際製藥株式會社は遠くメキシコに支店を置き、同地方に新販路を開拓しつつあるもので、此の事は畏くも天聽に達した程であつて富山賣藥の誇りとして居る所である、昭和八年末現在の營業方數六千七百十九方、營業戶數六百六十四戶、請賣戶數三百五十三戶、行商人員六千六百七十七人で、職工數男女を合せ二千二百八十五人を算する

【絹織物】 俗に絹毛斯綸といふ輸出向のシフォン、ジョセット及び内地向の紋織は又た富山市の特産物である、之れを製織する富山縣織物模範工場は大泉町に在つて、高田市に分工場を有し、京都及横濱、神戸に出張所を

設けて居る。其の創業は明治三十五年で、之れを輸出したのは同三十八年である、當時印度に於てはシフォンの需要多く、歐米諸國から盛んに供給したものが、幸ひに我が製産の夫れば、品質優良なるが上に價格低廉であつた爲め、遂に猛烈な競争に勝ち、爾來印度を唯一の華主として年々輸出の産額を増し、今は濠洲、加奈陀、南米、埃及、南阿方面、歐洲諸國にまで販路を擴張するに至つた、製品の種類は前記シフォン、ジョーセット、内地向紋織の外、佛蘭西縮緬、ニノン其他で、中にも金線入のものは實用新家として登録せられ、他の模擬を許さないもので、御殿帳、蟲除と共に各地に歡迎せられて居る。

【木工品】 富山市は立山連嶺及び飛騨地方

の良材を利用し得る關係上、古くから木材工藝地として知られて居る、先づ指物の重なるものは和洋家具、唐木細工、箆笥、彫刻物、小箱等で實用品に重きを置き、技術の精熟、價格の低廉と相俟て歡迎せられ、殊に近時多數少壯作家排出し毎年開催の商工展に優秀なる地位を占め、今や各地より重視されるに至り、建具では障子襖、欄間等は古來の特産で製品の優良、價格の低廉と製作の堅牢と相俟つて好評を博して居る、中にも欄間は透彫欄間の製産地で、二十餘年前中島李堂が糸鋸を以て透彫欄間及象嵌を創始して以來欄間は殆ど糸鋸を利用し、從來の繪風は一轉して圖案風となり、技術巧妙、意匠圖案に新生面を開拓して居る。

【漆器】 富山市の漆器は今を距る二百六十餘年前寛文年間田中與四郎なるもの、藩祖前田利次卿に仕へて業方になつたのに起因し、第二世前田正甫卿の時代に蒔繪師梅原半助、青貝細工師柚田清輔を招致してから、其の精巧なる技術は忽ち富山漆器の名聲を發揚せしめた、天保年中井川左茂理が鞘塗なるものを發明して一新機軸を案出し、明治初年牧野豊次郎氏が輪島塗沈金塗を創始して以來富山漆器の前途に光明を與へ、其の後更に彫刻塗現はれ兩々相俟て販路擴張せられ、近時に至りて多數の優秀少壯作家出でて益々其の眞價を向上せしめ、時代の進歩に伴うて大に斯業の發展を來し、商工展に於て優秀なる地位を占むるに至り朝鮮、東京、大阪、長野、北海道

九州を始め、能登飛騨方面に移出して居る。

【清酒】 舊藩制時代に特任で清酒醸造を許した家が十三戸あり、各醸造家は總て其の株を守つたものであるが、明治維新後に至り特任株の制が廢せられて十七戸に増加した、爾來一盛一衰を免れず、現在の醸造戸數は九戸であるが、其の製造方法に就ては専門技師を聘して講習を開き、或は實地に指導を與へて改善に意を用ゐ、今や各國の酒精と相並んで殆ど遜色なく、當業者も皆に富山の清酒でなく、日本の清酒として市場に雄を稱せんことを期して居る。

【醬油】 富山醬油の濫觴は今を距る二百二十餘年前即ち寛永年間で、稻波長兵衛及び富山藩の鹽取締をしてゐた吉山新四郎爲久なる

人が始めて此の業を開始したにあると、而して當時の醬油業者は皆な荒物を兼業し供給の範圍も一地方に限られ、販賣方法も小賣商なく消費者との間に直接賣買してゐたが、爾來幾多の變遷を経て維新後長足の進歩を爲し、現今では其の製造戸數七戸である。

【菓子】 古來富山市は菓子をして名あり殊に近時著しく嗜好せられて其の産額を増じつつあり、最近の製菓戸數百五十餘戸、年産額四拾五萬圓を超えて居る、菓子の種類としては蒸菓子、餅菓子、羊羹、落雁、煎餅、其の他掛物等でも中にも月世界、しほかま、浮城は畏き邊りへ献上し又は御買上の光榮を有する名菓である。

【ラミー糸】 ラミー紡績糸は大正六年に起

つた第一ラミー紡績會社の製作に係るもので同社は富山市外清水に在る、其の特色は歐米に於ける如き機械的搗打に據らないで化學的處理を用ゐる處から、毫も纖維を害せない、随つて歐米の夫れの如く、ラミー紡績の最強

牽強力及光澤を損せないのにある、此の最新式の特許法に依つて製作する種類は上布用、洋服用、瓦斯マントル用の原糸、革縫ミシン馬具、靴縫、漁網用の絲類等數多あつて、世界の新記録品であるとの好評を博しつゝ、ある【麻織物】 は市外奥田村に在る大正製麻株式會社富山工場の製造にかかり、大正十二年の創始で、地方として重要物産の一である、其の種類はホース、着尺物、洋服地、蚊帳地等で、原料の麻糸は勿論自工場で紡績するも

のを用ゐる、就中ホースは消防用を始め水道用、鑛山用、船舶用の各種あり、最高水壓に堪え、強靱と耐久を以て好評を博し、今や販路は北は樺太より南は臺灣に及び、更に滿洲上海南支方面に擴張されて居る。

【工業藥品】 化學工業藥品として黃磷、赤磷、硫黃磷及び磷鐵、磷化石灰を製造する、合資會社金山電化工業所が市外稻荷にある、同所は大正十二年頃、外資經營の製燐業者が獨專的暴威を逞うし、我國特産の燐寸製造業者を脅威しつつあるを慨し同十四年金山龜之助、同喜八郎氏等一族が貳拾萬圓の合資經營を以て創立したもので、爾來努力研究克く創立當初の市價より半額以下の廉價で全東洋市場到る處に歡迎せられて居る、殊に其の品

質の優秀は外國品を凌駕し各燐寸製造所、化學工業場、陸海軍工廠、八幡製鐵所を始め支那、印度、南洋方面を販路とし、大阪に支店天津に販賣代理店を置いて居るが、昭和三年京都に開かれた大禮記念博覽會に價良國産章を受領した程である。

【其他】 賣藥の産地だけに賣藥容器としての硝子製品、錫製品、鍍力罐及木製品、綿織物等の製造多く、尙ほ強靱なる和洋傘、履物、藤細工品等の製産も尠くない。

【鮭鱒鮎】 以上は孰れも工業に屬するものだが、更に紹介を逸すべからざる水産がある即ち其の質の清鮮と其の味の甘美を以て、夙に名産として珍重せらるゝ鮭、鱒、鮎で富山市を流るゝ神通川に産するものである、往昔

藩主から幕府への獻上品にも之れを用ゐ、徳川吉宗特に鮎の鮓を賞味して前田利興卿に其の製法を問ふたことは能く市民の知る所である、明治天皇御巡幸あらせらるるや鮎鱒の天覽あり、大正天皇東宮に在まして行啓あらせらるゝや、同じく鮎鱒の臺覽あつてから、爾後

毎年獻上の光榮を荷ひ明治四十五年に至り終に神通川を御獵場に編入せられたのは、音に同川のみでなく、市の名譽之れに如くはないのである、然れば神通の名産は更に四方に喧傳せられ、各地に移出せられるに至つた。

【名産土産】 主要物産は前項の如くであるが尙ほ名物或は土産品としても紹介すべきものが尠くない、即ち木工品に組立電燈笠、釜敷などがあり、織物製品に蟲除（膳又は菓子

器覆、御殿帳があり、玩具に獅子頭、富山人形があり、食料品に至つては菓子の月世界、しほかま、浮城は共に長き邊りへ獻上又は御買上げの光榮に浴した名菓、其他神通川名産の加工品として、鮭の鹽引、鮓、はら／＼（鮭兒）の粕漬、鱒の鮓、鮎の粕漬、白焼、鮎鱒、うるか（鹽辛）等があり、更にすゞ筒の鱒鮓、螢烏賊の煮干、烏賊の黒作など何れも著名なものである、尤も菓子以外の食料品は共に季節的のものである。

【水力電氣】 産業を論じ、工業を説くに方り、特に見通すことの出来ないのは水力電氣である、我が富山縣は東西南の三面山岳重疊、其の間を流るる溪水は急激なる斜面を直瀉して飛瀑となり、奔河して大河

ミなる、庄、小矢部、神通、常願寺、黒部の各川を始め大小幾十河、而かも其の一たび氾濫せんか洪水の災害を被らざるなく、爲めに縣費の大半は之が復舊の工事に投せらるるの己むを得ない状態であつたが。時代の進化に伴ひ此の禍を轉して福と爲したるものは、即ち豊富なる水力を利用して發生する電氣で、今や水力電氣の寶庫を以て稱せられ、其の包蔵する天與の水力は實に百萬キロワットを推計せられて全國の一割を占め、内既に發電開始のもの四十一萬餘キロワットを算し、之が投下資本貳億圓に達して居る、現に縣に於ても治水と財政及産業振興の二大目的の下に常願寺川及黒部

川水系に約十二萬キロワット(内既發電六二、五〇キロワット)の水力電氣事業を經營して居る、今試みに昭和九年一月末現在に於ける本縣の水利使用概況を見るに許可合計地點六十六、此の總電力七十八萬四千百餘キロワット、内既に發電を開始して居るもの五十一地點、四十一萬二千四百餘キロワットに上り、目下工事中のもの一地點、六萬五千百餘キロワット、未着手のもの十四地點、三十萬六千五百餘キロワットで、前記發電開始の四十二萬餘キロワットは實に全國第一位を占むるものである、此の現在發電力は其の一部分は縣内に於て消化せられ、他の大部分は縣外に供給する、縣外供給は新潟、石川の如

き近距離のもの、大阪、名古屋、東京の如き遠距離供給ものもあり、遠距離供給は日本電力の東京送電線及名古屋、大阪送電線並に昭和電力の大阪送電線、此の三大送電幹線を以て各々需要地に送電されて居るのである、斯く電力の豊富は従つて其の料金に於ても低廉なること全國其の比を見ない、加ふるに本縣は職工の供給地と稱せらるる程職工を得るに容易で、其の賃金も比較的廉い、近年縣外の資本家にして此の點に着眼し、縣下に大工場を建設するもの年を逐うて増加することも電氣王國たるを首肯される、而も將來産業の發展は益々其の需要を激増するの趨勢にある、況んや富山

市より東岩瀬に至る富岩運河の沿線一帯は地盤硬く、地下水亦豊富で各種生産工場建設に好適とされて居る、今や神通廢川地の埋立工を竣へ、富岩運河の開け、岩瀬港の修築成り、飛越鐵道の全通等、彼此相俟つて富山市を中心とした一帯が、此の豊富にして低廉なる電力の消化地として、一大工場地を現出せんとして居るのである。

商 業

概 説

我が富山市は越中の平野に位すれども、曾て東京にも遠く大阪にも近からず、東には親不知の難路あり、西には俱利伽羅の峻坂あつて、加賀に通じ越後に達するすら、交通運輸の極めて不利不便のものがあつた随つて商業の發達著しからず、商事の取引振はず、只だ僅かに市民の需要に應じて物資を供給するに過ぎなかつたのである、而かも封建時代に在つてさへ、一足の草鞋、一隻の脚絆以て全國を踏破し、樺風沐雨具

さに艱難辛苦を嘗めて、商業に従事したものの蓋し富山商人の如くはないのである、故に幾たびか水火の災に罹るも毫も屈撓するの色なく、一難を経る毎に一倍の勇を鼓し來り、克く奮闘して業に服し、克く勤勉して産を治むることも古來の特性を稱すべきである、而して維新以後に於ては、陸に鐵道の開くるあり、海に汽船の通するあり、商賈の往復、物資の集散、逐年増加するに隨ひ、商運開け商勢進み、更に銀行の設けあり、會社の起るありて全く其の面目を一新し、皆に内地の商業のみに止まらず、更に海外の取引をも盛んならしむるに至つたのは、固より時勢の進運に伴うて斯業の發

展したるに因るとは云へ、抑も亦富山の商人が久しく鍛練した氣風の與つて大に力ありと云はねばならない。

(28)

【會議所】 市内商工業者の唯一代表機關である富山商工會議所は、明治十三年始めて富山商法會議所と稱して創立せられたに起り、同二十年其の組織を變じて富山商工會議所と改稱し、故中田清兵衛氏を會頭に擧げたのである、同二十六年四月に至り曩に公布せられた商業會議所條例に依りて設立の認可を得、同三十五年三月商業會議所法の實施あり、更に之れに依りて組織を繼續することとなつたが、昭和三年一月商工會議所法の實施を見るに至り再び商工會

議所と改稱して今日に及ぶので、明治二十六年商業會議所として創立以來茲に四十餘年、大正十二年には盛んなる滿三十週年記念式を擧げた。

其の間常に商工業の發達を圖り調査、紹介、通信は勿論、或は意見の表示に、或は諮問の答申に、或は事業の施設に専ら商工業の利益を進めつゝある中にも意見の表示として富直線の急設、飛越線の速成、神通川の改修、岩瀬港の修築、藥專校の官立移管を始めとし、交通に通信に其の他商工業關係に經濟關係に各般の問題に就き政府に建議し、議會に請願して目的の貫徹に力め其の決議の實行を見たのは顯著なる事實で

地方の一大特産たる賣藥印紙税の廢止に就ても多年當業者を援助して其の目的貫徹に努力した、獨り地方的のみならず全國的に活動する必要より創立直後全國商業會議所聯合會(今は日本商工會議所)に加盟し、更に北陸商業會議所聯合會(今は北本州商工會議所)を組織し、爾來毎回代表者を出席せしめ、夫の營業税全廢問題の如きに對しては最も熱心に之れを主張したのである、尙ほ茲に特筆すべきは大正十年會議所の主催に依り富山市に北陸商業會議所聯合會を開いた際、皇太子殿下(今上)の北陸地方行啓に關する請願を提議したことで、滿場一致を以て可決し、之れを宮内大臣に請願すべく田邊會頭特に上京陳情され

(29)

たは、單に商工業者のみならず縣民一同の赤誠を披瀝したので、爾後北陸三縣の知事及び縣會よりも之れを請願した結果、大正十三年十一月北陸平野に於て陸軍特別大演習を舉行せられ、殿下には之が御統監として行啓、特に同月十日我が富山市に鶴駕を奉迎し、當時の吉田會頭より商工業者を代表して奉迎の賀牋を奉呈して御受納あらせられたが、此の盛儀は商工業者及び縣民一同の光榮として永遠に記念し奉る所であり更に最近時局に鑑み飛行場の設置及航空路開始の必要を提唱して、其の實現を見るに至らしめたことも特筆すべき價值あらう。又事業の施すしては明治四十四年始めて店

員獎勵を行ひ、次で大正元年職工獎勵を行ひ、同八年更に賣藥行商獎勵を行ひ、多年勤續斯業に忠實に品行方正他の模範たるべきものを表彰したこと既に千數百の多數に上つたが、更に大正十五年度よりは新規事業として商業實務員學力檢定試験を行ひつゝあり、其の他商工業の發展に必要な各種施設を爲しつゝある、而して前記創立滿三十周年記念式に際し其の記念事業として新に主務大臣の認可を得て勤續議員表彰規定を制定し其の記念式と同時に第一回表彰式を舉げ、超えて大正十四年議員の改選に際し其の第二回を、昭和四年第三回、同八年第四回を行ひ、至誠熱心克く職務に盡し商

工業發屋の爲めに努力された、左記諸君に金杯又は銀杯を贈與して其の功績を表彰した。

第一回

在職二十四年	前特別議員	江守精一君
同 二十二年	前特別議員	關野善次郎君
同 二十年	前特別議員	故 高桑安次郎君
同 二十年	前特別議員	故 中田清兵衛君
同 二十年	前特別議員	故 牧野平五郎君
同 十六年	前特別議員	故 森 正太郎君
同 十四年	前特別議員	故 小谷忠助君
同 十四年	前特別議員	故 阿部初太郎君
同 十三年	前特別議員	故 永井平助君
同 十三年	前特別議員	故 山田善藏君

第二回

同 十二年	前議員	故 須田藤次郎君
同 十二年	前議員	故 岩田伊兵衛君
同 十二年	前議員	故 長谷川庄藏君
同 十二年	前議員	故 吉川傳四郎君

第三回

在職二十七年	前副會頭	故 金井久兵衛君
同 二十七年	前副會頭	並 木文右衛門君
同 二十六年	前特別議員	山田信昌君
同 二十六年	前特別議員	蓮沼安太郎君
同 十四年	前議員	故 密田兵藏君

同 十二年 前 議員 近藤嘉久吉君
同 十八年 前 理事 故小塚義太郎君
同 十五年 前 書記 能勢一雄君

第四回

在職二十年 前副會頭 馬瀬清九郎君
同 十四年 前議員 矢郷小平君

而して初代の會頭は關野善次郎、二代山田信昌、三代は故田邊貫一、四代は吉田耕三、五代は故高桑直助、六代は須田藤次郎七代は故出水寛義の諸君で、現在の金岡又左衛門君は第八代に當り、昭和四年四月の就職(昭和八年再選)で、君は一面貴族院多額納稅者議員である、副會頭は故山野清平、故田中

清次郎、故志波久次郎、故牧野平五郎、故郵澤金廣、故阿部初太郎、故森正太郎、故淺野清三郎、馬瀬清九郎、故金井久兵衛、故高桑直助、須田藤次郎、室勘助、金岡清彦(現又左衛門)、長谷川平七君相踵いて交迭し、現任は高田甚四郎君で昭和五年二月の就任(昭和八年再選)、理事は創立以來交迭四回、現任大間知圓兵衛君は昭和三年六月の就任である。會議所現今の建物は大正十年八月十五日

で議員の集會にも職員の執務にも利便となり、傍ら商工業者に提供して利用せしむることを得るに至り、輪奐の壯麗は市内の偉觀と稱せられつゝある、工費は建築費八萬五千圓其の他の裝飾及び設備費約貳萬五千圓を要したが、之れに對して當時の會頭故田邊貫一氏及び新築委員長であつた前顧問連治安太郎氏から巨額の寄附金があつて、其の篤志を記念する爲會議室に歴代會頭と共に肖像が掲げられてある。

【陳列所】 富山市商品陳列所は總曲輪なる富山商工會議所の隣接地に在り市立である、市内物産の改善機關として創立せられ、大正四年五月に竣工して七月に開館し

たのである、蓋し富山市に於ける陳列場は明治二十七年縣立として設けられたのを嚆矢とするが同三十二年の大火に遭ふて灰燼に化してから幾多の變遷を経、大正三年に至り遂に市立として建設することゝなつた爾來逐年諸般の設備を整へて事業の振興を圖り、市内の物産を陳列して隨意に公衆に觀覽せしめ傍ら委託販賣を行ふて居る、同九年より新たに圖案部を設け尙ほ各郡市の物産をも陳列して其の規模を擴張したが、現今の所長は磯野富之助氏である、昭和八年中に於ける販賣點數二萬七千八百五十四點、販賣價額壹萬百四圓に上つた。

【銀行】 富山市に本店を有する銀行は

普通三行、貯蓄一行で、昭和九年上半期末現在に於ける本店銀行の總資本金貳千六百參拾九萬圓、拂込金壹千七百五拾六萬參千五百圓に上り、積立金五百五拾萬貳千八百餘圓を有し、此等の銀行は何れも市内に市外に或は縣外に支店を置き、其の多きは三十餘、少きも四五を數へ、更に市外又は縣外の銀行にして市内に支店或は派出所を置くもの十有餘あり、近年商工業の發達に伴ふて金融界の繁忙を來しても、其の資本の豊かなること地方稀に見る所で、取引の圓滑を以て能く金融を調節し、營業に就ては孰れも特色を有して、各行共に夫れ相當の勢力と信用を得て居る。

【會社】 事業の消長に伴うて會社の興廢を見るは自然の趨勢で、富山市内に於ける會社も亦好況時代に起つたものが多かつたが、其の後財界の反動を受けて整理されたものも尠くなかつた、昭和九年八月末現在の市内に於ける會社數は二百五十二で、内株式七十五、此の公稱資本金額七千參百五拾參萬九千七百圓内拂込額五千五拾四萬參千九百九拾圓、合資百四十九、此の出資金總額七拾四萬七千拾圓、合名二十八、此の出資金總額八拾參萬四千八百拾圓、其の事業別では賣藥製造及藥品販賣等の二十を最多として賣藥王國たることをうなづかせ酒、醬油味噌製造販賣亦二十、吳服商の十

六之に亞ぎ、鐵道及其他運輸十一、食料品製造販賣十、製材及木材販賣七、有價證券賣買仲立五、無盡、電氣、土木建築の各四等を主なるものゝす、更に資本別では拾萬圓未満二百二十、拾萬圓以上十八、五拾萬圓以上四、百萬圓以上七、五百萬圓以上一壹千萬圓以上二で、その他市縣外に本店を有する會社の支店出張所も尠くない。

【市場】 富山市に始めて米市場の開かれたのは寛政二年(一四五)で、後に袋町より中町に移り、更に總曲輪に轉じて終に閉鎖した、明治二十七年殿町に起つた富山米穀肥料取引所は即ち今の富山米穀取引所の前身で、富山縣が米産地である丈け、夫れ丈

け其の取引も盛んで大いに繁昌を極め、昭和八年の賣買出來高約八萬石であつたが、昭和九年四月の營業免許更改期から新に銘柄別清算取引を開始した、初代の理事長は關野善次郎氏で、現理事長は昭和九年三月就任の廣田傳次郎氏である、又た富山魚市會社は八人町に、富山八百物市場は總曲輪に在る、共に明治三十九年の創立に係るもので、日々數百の商賈群集して其の價格を競ふの壯觀は、今猶ほ昔に異る所がない、市内は勿論附近の村落に需用する魚介野菜は、概ね此の市場に上つて供給せらるゝのである、昭和八年の販賣價額を聞くと、魚市は八拾壹萬五千四百餘圓、八百物市場は

四拾九萬參千八百餘圓であつた。

【商工團體】 如叙の如く商工業の發展は自ら自治的商工團體の設置を促し、縣又は郡市に於て其の利害を同ふする當業者中縣又は郡市を區域として組合を組織し以て相互の福利を進め斯業發達を圖るものが多い、現今富山市内に在るもの、種別を擧げると法規に依り設立せる商業組合一、産業組合十三、重要物産同業組合及其の聯合會並に支部八、準則組合二十三、其の他九で、尙ほ市内各種商工同業者の自治組合が尠くない、商工業に關する事項を討究して其の發達を企圖しやうとする富山市商工業組合聯合會は、目下の聯合組合數五十七

代表委員九十八名を有する、其の創立は明治三十二年、當時の役員は會長關野善次郎副會長故若林元四郎、故横江清次郎諸氏て爾來商工會議所内に其の事務所を設け、恰も會議所の別働隊の如くに活動して今日に及んで居る、現在の會長は藤井佐七氏、副會長は近江虎次郎氏である。

【職業別戸口】 富山市の戸口が一萬八千三百餘戸、八萬九千四百餘人であることは卷頭市勢に陳べた通りであるが、今之を職業別にあげると左の如くて、即ち商工業者を以て總數の約半ばを占め、商工都市たるを肯かせる。

業種	戸數	人口
農業	三九	三、二三
水産業	一〇七	五、五四
工業	二	九
鑛業	三、七三	一七、三七
商業	五、七〇二	二六、八三
交通業	六、六	三、三五
公務自由業	二、五三	二、八三
家事使用人	一四	七九
其他の有業	二、六五	一三、〇七
無職	二、七三	一〇、八四

【納稅者】 更に富山市の營業者數を納稅關係に就て見ると、昭和八年決定の國稅營業收益稅納稅者一千九百三十一人、同年四月現在の縣稅營業稅納稅者三千九百人、

合計五千八百三十一人で、尙ほ此の納稅者以外にも若干の小營業者あること勿論である。

【物價賃金】 尙ほ富山市の物價及び賃金の趨勢を指數に依つて最近五ヶ年間を見るに左表の如く、物價は大正十年を、賃金は同八年を一〇〇としたものである。

年	物價指數	賃金指數
昭和四年	七三、一	一三、四
同五年	七三、一	一〇五、五
同六年	三、五	八三、一
同七年	六、一	七五、二
同八年	六、六	七四、九

金融

概説

斯く商工業の發展に併行して金融機關も大に發達して居る、銀行を中心として無盡會社、信託會社、郵便貯金爲替、信用組合を始め質屋、個人金貸業などが活躍して居り、就中富山市に於ける銀行業の發達は北陸の各都市中に冠たるのみでなく、地方として稀に見る所である。

【銀行】 即ち富山市に於ける金融機關としての銀行は前にも陳べた如く、普通銀行では資本金貳千百萬圓、北陸銀行界の覇

王を以て自他共に許す十二銀行を筆頭に、第四十七、富山の三本店と、其の支店派出所三店を數へて約貳千六百萬圓の資本金を擁し、尙ほ市外に本店を有するものの支店が高岡銀行を始め中越、岩瀬、永守、滑川各支店に其の派出所を加へて七店を算する外特殊銀行に勸銀支店あり、貯蓄銀行では本店に富山合同貯蓄、支店に金澤貯蓄(三)不動貯蓄があるなど、資金甚だ豊かて、財界の恐慌にも地方の金融界は比較的靜穩である、今最近二箇年に涉る金融の概況を示すと左の如くである。

預金		昭和七年	昭和八年
年内預金		三六、五八六	三六、三三六
年内拂戻		三三、三〇〇	三六、九三三
年末現在	貸付	七、九七七	三、一七六
年内貸付		一〇、七九三	九、四七七
年内返済		一〇、八四〇	九、三六八
年末現在	爲替	三、六〇六	三、六〇六
送金手形	取組仕拂	三、七三〇	六、〇四三
荷爲替	取組	七、〇五四	七、六六八
手形	取立	九、五四四	一、四四〇
其他	取立	八、八四三	九、三三六
	取組	一、三〇八	一、二四四

金利

貸付	昭和七年		昭和八年	
	最高	最低	最高	最低
平均	三六、〇〇	三〇、〇〇	三六、〇〇	一九、五〇
割引	最高	最低	最高	最低
平均	三六、〇〇	二七、〇〇	三六、〇〇	一九、五〇

【手形交換】 富山手形交換所は十二銀行内に設けられてある、最近二ヶ年間の交換成績を擧げると左の如くである。

枚数	昭和七年		昭和八年	
	額	枚	額	枚
金	一三、四三三	一、二四三	一三、四三三	一、二四三
貯金爲替	七、〇〇三	一、〇〇三	七、〇〇三	一、〇〇三

ふ郵便貯金、郵便爲替等の概況も地方の金融一班を知る上に必要である、富山郵便局を始め市内各三等局で取扱ひにかゝる最近二年間の貯金、爲替、振替の概況は左の如くであつて、郵便貯金が北陸の他都市に比して遙かに少いのは、一方銀行が他都市よりも發達して居る關係が主因で、爲替特に其の拂渡に巨額を示すのは主として特産賣藥の關係に因る、即ち業者が集金し得た代金を此の爲替に託して留守宅へ送るのである

郵便貯金

預入	昭七年度	昭八年度
	口數	口數
	金額	金額
	二〇、八五五	二四、八六六
	二、五五五	二、四四四

拂度戻
現年度末
人員七、二五四
人員八、四八七
人員三、一五五

郵便爲替

内國	昭七年度	昭八年度
	口數	口數
	金額	金額
	六、三三三	六、三三三
	一、三三四	一、三三四
外國	九、七五四	八、〇〇〇
	二、一六六	二、四七六
振出	九〇	二二
拂渡	五	八
振替貯金	昭七年度	昭八年度
	口數	口數
	金額	金額
	四、九〇三	四、七七七
	一、五五四	一、六〇三
拂込	二、三三八	二、六六一
拂渡	三、三九四	三、五五三

【信用組合】 富山市に於ける信用組合は一般市民を組合員とする富山市信用組合同仁信用購買組合を始め、同業者間の金融機關たる賣藥信用、神通川漁業信用販賣、購買販賣利用吳羽信用の五組合があり、夫々金融事務を取扱ひ、組合員の貯金及び融資の便を圖つて居るが、此の五組合に於ける最近二年間に於ける概況は左の如くである。

組合員數	昭七年末	昭八年末
	三、四四八	四、二四八
出資總額	三、四四五	三、四四〇
拂込濟額	一、九一	一、六
貸付	八六	八九
貯金	九三	一、〇三

【信託會社】 之も金融機關の一なる信託業として、資本金百萬圓(拂込額)の富山信託株式會社がある、同じく最近二年間の勘定は左の如くである。

信託引受

前期繰越高	昭七年度	昭八年度
	五、五	四、九
年内増加高	二七	二五
年内減少高	三七	三五
年末現在高	四九	四四
貸付金	昭七年度	昭八年度
	五、八	四、五
前期繰越高	一、二八	一、〇六
年内貸付高	一、三五	一、〇三
年内入金高	一、三五	一、〇三
年末現在高	四、五	四、九

【無盡會社】

更に富山市には庶民金融機關としての無盡業が相當發達し、一般庶民の金融に便して居るは勿論、又た中小商工業者の融資上にも貢献する所尠くない、本店會社としては資本金五拾萬圓の中越無盡を筆頭に、參拾萬圓の富山無盡及び各五萬圓の勸業無盡、無盡公司共益の四社があつて、此の資本金總額九拾萬圓、拂込額五拾七萬五千圓外に高岡無盡、岩瀨興業無盡、明正無盡の各出張所がある、今本店會社四社中整理中の一社を除く三社に於ける最近二ヶ年間の契約概況を示すと左の如くて、其の數字は以て無盡が如何に地方金融界を潤し、中小商工業界に貢献してゐるかを窺

ふに足るものがあらう。

	昭和七年	昭和八年
年内新契約高	三、二六〇	三、九〇〇
年内満期決済高	二、八五三	三、八六〇
年末現在契約高	三、〇〇〇	三、八三三

尙ほ古來富山地方には個人組織にかゝる無盡俗に言ふ頼母子講が甚だ盛んである、昭和九年八月現在で警察署へ届出たのあるものだけの市内に於ける講數が二百三十一講員數六千八十二名、此の一回の掛金額一萬一千五百五十圓、之から見て其の一巡する間の總金額は約三十萬圓を推計される、尙ほ此の外届出でないものも少くなく、相當巨額に上つて小口金融に便して居る。

【質屋】

我が富山市に於ける金融の概況を記述するに當り、先づ銀行を始め、郵便局、信用組合、信託會社、無盡會社の各種機關に涉り其の梗概を叙したが、最後に今一つ見逃すことの出来ないものがある、即ち下層界の金融機關としてなくてはならぬ質屋がそれで、富山市内に於ける質商は二十戸ある、今其の最近二ヶ年間の概況を左に記して此の項を終ることとする。

	昭和七年	昭和八年
貸付(入質)	口數 一、八七五 金額 一、〇三三	口數 一、〇三三 金額 一、〇三三
回収(受質)	口數 二、七七一 金額 二、七七一	口數 二、七七一 金額 二、七七一
流質	口數 二、七三三 金額 二、七三三	口數 二、七三三 金額 二、七三三

交通

概説

我が富山市は富山縣の中央に位し、道路としては東越後に通じ、西加賀に達する幹線道路を國道とし、飛驒に達する路線の外縣下主要各地に至る數條の縣道が通じ、鐵道にありては省線北陸幹線が市の東西を縦走して西は阪神地方へ、東は東京横濱地方への交通が自由なるのみでなく、往年の羽越線全通は青森、下關を連絡して我が富山は其の中間に位し、北海道及東北地方と關西九州地方との交通甚だ至便となつた、一

方富山より高山を経て岐阜に至る飛越線亦將に全通して太平洋沿岸線と日本海沿岸線を結びつけ、名古屋方面との交通便利となり、更に省線富山驛を中心に郊外へ放射する社線等が實に五線に及び、實に北陸に於ける交通都市の觀がある、加ふるに最近新に航空路の開拓せられ東京、富山間及名古屋富山間に定期飛行の實施を見るに至つたことは聊か誇るに足る。

【空路】 富山市の北西約二里半、婦負郡倉垣村に建設された愛國飛行場即ち富山飛行場を空港とするもので、東京、富山間の飛行は日本航空輸送株式會社が逓信省及縣市援助の下に、昭和九年五月より開始、

十月迄毎月四回乃至五回定期に六人乗旅客機を使用して旅客及航空郵便を取扱ひ、其の間立山彌陀ヶ原及市上空の遊覽飛行をも行つてゐる、東京、富山間は普通中部山嶽横斷コースを取る行程二八〇軒、此の所要時間僅に約一時間四十分、旅客一人の片道料金十六圓、又名古屋、富山間は名古屋飛行學校の犠牲的奉仕に係るもので、同校所屬偵察機を使用して同年七月より開始之亦十月迄毎月曜日に實施して居る、航空郵便は未だ取扱を見るに至らないが、旅客は毎回一名を限り無料便乗せしめて居り、コースは第一伊吹山上から敦賀灣上を経由するもので二六〇軒、所要時間約二時間、第二

が飛驒經由の直線一八〇軒、所要時間一時開半、共に超交通機關として地方文化産業の進展に資して居る、尙ほ東京、富山間の航空路を更に大阪に延長し、一面地勢の關係上日本海を通じて日滿連絡飛行の開始を見るの日の遠からざるを期待されて居る。

【陸路】 富山市内の道路は國道三軒九六九(三三〇)、縣道一三軒七八二(三三〇)、市道一〇八軒一七六(三七九)、合計一二五軒九二七(三三〇)に達して四通八達し、更に中央西町の元標より四四軒六七(二九四)を経て、加賀國境の天田越に至る路線と同じく西町より五五軒八四(二四七)を経て、越後國境の境川に至る路線は、往昔からの國道である

が、尙ほ西町より飛驒國境に至る路線の外に、縣下主要各地に至る縣道などもあつて交通と共に運輸の便もある、尙ほ市内に於ける橋梁は百一の多きを數ふる、之は一面火防水路の完備をも物語るもので神通川筋に架けられた有澤橋、新大橋、神通大橋は共に延長二百間以上の大橋梁である。

【海路】 富山市より海岸に出づるに最も近いのは東岩瀬街道で約七軒八五(三)、古來唇齒輔車の關係を有し、伏木港も亦遠くない、共に三千噸級船舶が接岸し北海道、樺太間に定期航路を有する外北鮮命令航路は北鮮方面は勿論、露西亞及支那にも交通するを得、尙ほ伏木港は此の外大連航路を

も有し日本海屈指の良津であると共に本縣唯一の開港場であり、岩瀬港亦遠からず其の指定を見むとして居るのである、かくて兩港は將來中部日本に於ける對岸貿易の鍵を握るものとして矚目されて居る。

【鐵路】 北陸省線は市の東西を縦走するが、それは明治三十二年三月富山まで開通し、更らに大正二年四月直江津まで全通したもので、富山驛を中心に縣下石動。泊間八四軒に亘り、富山より高山を経て岐阜に至る二二四軒〇三九(三四分)は昭和九年十月を以て全通し茲に太平洋岸と日本海岸の二大幹線が連結せられて一層の利便を加へるに至つた、右の外同じく省線富山驛から

分岐し、市の東郊を繞つて南端堀川町に達する社線富南鐵道五軒(三分)あり、更に縣營鐵道は富南堀川新驛に接する南富山を起點に、上瀧を經立山々麓千垣に至る一九軒五(二分)に通じて登山に便し、一方省線富山驛前を起點とする富山電氣鐵道は富山、上市、滑川間二一軒七(五分)及上市口、立山間一二軒五(七分)を運轉し、尙は省線富山驛から分岐する富岩鐵道八軒二(五分)は岩瀬往來に沿ふて東岩瀬港に延び、又た富山から四方を經て伏木港の對岸新湊に達する越中鐵道は市と連絡を取つて其の吳羽線聯隊橋西詰を起點に新伏木港迄一九軒九(四分)通じて居る、斯て市を繞る驛は省線富山、西

富山を始め縣營の南富山、富南の稻荷、山室、堀川新、富山電鐵の東田地方、稻荷、富岩の富山口、越中鐵道の新富山、富山北口の十二驛の多きを數へ、其の吞吐する旅客、集散の貨物は年を逐うて増加を見つがあるが、此等各線に於ける最近二ヶ年間の概況を示すと左の如くである、尤も省線富山驛から分岐し連帶運輸を行つて居る、富南、富岩兩鐵道の富山驛に於ける分は省線に含まれて居る。

省	線	昭和七年	昭和八年
		一、三三、七〇	一、三五、〇八

縣營鐵道	一、三三、七〇	一、三五、〇八
富南鐵道	二二、六九	二七、六六
富岩鐵道	二九、六二	二七、二〇
越中鐵道	三三、三〇	三九、七二
富山電鐵	四〇、六四	四九、二八
合計	一、三六、三三	一、五九、五〇
省線	一、三五、七六	一、三九、九〇
縣營鐵道	一、三三、七〇	一、三〇、八二
富南鐵道	一〇九、四五	一一、六八
富岩鐵道	二八三、七七	二七〇、五八
越中鐵道	三八、〇九	三九、七九
富山電鐵	三九五、二六	四七三、二七
合計	二、六二、一〇	二、五二、八九

貨物送

省線	昭和七年		昭和八年	
	發	到	發	到
縣營鐵道	四、三〇六	一、五八六	三、七六三	三、〇〇六
富南鐵道	一、三、四七九	四、〇九四	一四、四七五	三、五〇五
富岩鐵道	七、六一	一、三〇三	一、三〇三	一、三〇三
越中鐵道	六、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
富山電鐵	九、〇一〇	六、九六六	七、四八八	四、四九四
縣營鐵道	一、八〇〇	七、四八八	七、四八八	七、四八八
富南鐵道	三、七、九三五	三、三六、八五三	三、三六、八五三	三、三六、八五三
富岩鐵道	一〇、三三三	八、八四六	八、八四六	八、八四六
富山電鐵	二、三、二五	一、三、七〇九	一、三、七〇九	一、三、七〇九
合計	六、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三

越中鐵道	一、三五	七二
富山電鐵	四	四元
合計	一四、三三三	一五、八三三

(48)

【電車】 富山驛前を起點に櫻橋を経て堀川新驛に至るを本線とし、西町より縣廳前を経て富山驛前に至るのこ、西町より新大橋を経て吳羽公園に至るのを支線とし、更に西町より堤町通りを元中教院前に出て砂町より雪見橋を経て東田地方なる富岩鐵道の連絡地點に達するを東部線とする、本線及び西廻り支線は大正二年九月の創設にかかり、吳羽線は同五年十一月から、東部線は昭和三年十月から開通したもので、本線中富山驛前より白山社前に至る間と、東

部線が複線、其の他は單線で此の總巨長一〇軒六一九(六分)で二十七臺の車輛を有する元は富山電氣軌道株式會社の經營する所であつたが、同九年に至り之を市營に移管し爾來本線の複線、東部線の延長等を行ふた最近二年間に於ける乗車人員は左の如くである。

乗車人員	昭和七年		昭和八年	
	一日平均	一日平均	一日平均	一日平均
市營	三、七、九三五	三、三六、八五三	三、三六、八五三	三、三六、八五三
省營	一〇、三三三	八、八四六	八、八四六	八、八四六

【自動車】 更に近時交通機關の一として自動車運送の發達最も顯著なるものあり我が富山地方に於ても大正十五年八月から電車の補助機關として市營乗合自動車の運

乗車人員	昭和七年		昭和八年	
	一日平均	一日平均	一日平均	一日平均
市營	五〇、八五九	六四〇、四八五	六四〇、四八五	六四〇、四八五
省營	一、六八	一、七七	一、七七	一、七七

轉を見、越えて昭和八年三月末から、鐵道省が廢止となつた元の社線富山鐵道の路線即ち富山、笹津間一八軒に省營自動車を運轉するに至つた、其の有する車輛は市營九省營八で、市營の最近二年間に於ける乗車人員と省營の八年度一ヶ年間の乗車人員をあげると左の如くである。

臺貨物用七十三臺を算する、今富山市を中心とする乗合及び貨物の自動車路線を擧げて見るに左の如くで此等自動車に依つて來往する旅客發着の貨物亦大なるものである

▼乗合自動車 新庄、上市、大岩、五百石、泊、笹津、八尾、長澤、高岡
▼貨物自動車 東岩瀬、水橋、滑川、魚津、三田市、生地、入善、泊、上市、五百石、上瀧、笹津、八尾、古川、船津、高山、小杉、高岡、新湊、四方、伏木、水見、金澤

【諸車】 其の他市内に於ける諸車の數を擧げるに左の如くである。

自轉車	八、四〇九
人力車	五九
荷積牛馬車	二四
荷車	一、二一一

通信

概説

富山市に始めて富山郵便役所なるもの置かれたのは明治五年で、それが今の富山郵便局の前身である、其の開始より今日に至るまで幾多の變遷を経、著しき發達を遂げて居る、又た電話の初めて市内に架設を見たのは明治三十九年で、當時は其の個數漸く二百個を超ゆるに過ぎなかつたが、爾來逐年加入の數を増して從來の富山局に於ける電話交換室は狹隘を告ぐるに至り、昭和六年荒町の一角に分室を新築して之に移

り、同時に在來の複式交換機が一躍自動式に變更されたのである。

【郵便】 富山郵便局の区内には三等局が十一あり、内七は市内で全部無集配局、他の四は市を繞る接續郊外地にあつて、郵便函が九十五ある、最近二ヶ年間に於ける郵便物の取扱數は左の如くである。

引受	昭和七年度	昭和八年度
通 常	八、〇六、三六	八、七四、三〇
小 配	一五、六五	一五、四六
通 常	八、六七、七三	九、五三、九一
小 包	一三〇、七〇	一三七、〇六

【電信】

是亦郵便と共に發達しつつあり、市内の電報取扱局は六箇所、外に取扱所一箇所(富山驛)で、最近二箇年間の取扱高を見るに。

	昭和七年度	昭和八年度
内國(發信)	二六、三六	一四、三〇九
内國(着信)	三三、九二	二四、〇〇四
外國(發信)	四三	三〇九
外國(着信)	四三	四三

【電話】

昭和九年三月末現在の加入者は二千五百八十個に達し、市外通話區域は同年八月現在で九百七十五箇所に及び、内長距離が七十二箇所で、遠く臺灣及滿洲國との間にも通話が出来頗る利便である、最

近二箇年間の通話状況は左の如くである。

市内呼数	昭和七年度 一七、六四九、九三三	昭和八年度 一九、七三三、六五五
市外(発信)	三、四六、九六六	三、八〇、〇五三
通話(着信)	四、四三、三九	四、五八、二〇〇

【**保険**】 富山郵便局に於ける簡易生命保険は、其の開始以來頗る良好の成績を挙げつつある、最近二箇年間の概況は。

	昭和七年度	昭和八年度
新契約	七、六〇二	八、一三五
契約受持	三、五〇八	三、六六一
保険料徴収	五、三、三二	五、三、三二
保険金及還附金拂渡	六、一五	四、一〇三

【**年金**】 更に郵便年金の概況を最近二

箇年に就て見るに左の如くである。

	昭和七年度	昭和八年度
新契約	八、三、一八五	九、三、四〇〇
掛金拂込	三、三、八、七六	三、三、五、三七
現在受持	三、三、三、八五	三、三、四、一三
掛金徴収	三、三、〇、五九四	三、三、〇、八六六
年金及返還金拂渡	一、五、九、九三	一、五、七、七〇

【**印紙切手**】 最後に最近二箇年間の印紙切手類の賣捌金額を挙げるに左の如くである。

	昭和七年度	昭和八年度
印紙	一、五、九、九三	一、五、七、七〇
切手類	三、三、一、三	三、三、一、三

雑俎

商工業に關する事項の外、富山市に於て案内すべきものが多い、左に其の要綱を一括して記すこととした。

【**市政**】 明治二十二年市制を施行せらるるや、富山市と稱して市役所を置き始めて市政を行ふたのである、當時の市長は故前田則邦氏で、爾來故市川伯孝、故加藤厚寛、關野善次郎、井上政寛、稻垣宗正、故牧野平五郎、井上政寛(二回)上埜安太郎諸氏相踵いで就職し、現市長金山米次郎氏は昭和八年三月の就任で市制施行以來第十代目又た現助役太田幸保氏は第七代目である。

【**財政**】 市の財政は年を逐うて膨脹し市制施行當時の收支豫算は、僅かに壹萬四千四百參拾九圓に過ぎなかつたが、昭和九年度豫算は百拾五萬餘圓に達して、約八十倍弱の巨額に上り、外に約參拾萬圓の特別會計がある、随つて市民の負擔も多大の増加を來したが、各種稅額に對する負擔平均は左の通りである。

國稅	現住一戸當 三、三、四〇	現住一人當 六、七、〇
縣稅	二、四、三〇〇	四、五、〇
市稅	三、三、〇〇	七、二、〇
計	九、〇、〇	一八、八、七〇

【**議員**】 貴族院議員は縣内を通じ互選

を以て多額納税者から一人を出すので、其の現議員は富山市の金岡又左衛門氏である。富山市から出した一人の衆議院議員は従来關野善次郎、故牧野平五郎兩氏交々選舉せられ其の後岩田大中、高見之通氏等の當選を見たが、今は中選舉區として、富山市は吳山以東四郡と共に第一區に屬し、其の定員三名も市内在住者が擧げられ即ち石坂豊一、高見之通、野村嘉六三氏である、又市選出の縣會議員は吉田清平、尾山三郎、深井龍太郎の三氏、市會議員は三十六人、商工會議所議員は三十人外に顧問六人である、而して最近に於ける選舉有權者は衆議院議員一萬四千三百六十二人、縣市會議員

一萬三千六百七十三人、商工會議所議員七百六十二人である。

【教育】 安永二年(一六〇)三代の藩主前田利興卿が、廣徳館を創立したのは越中に於ける教育の濫觴である、爾來時勢に應じて變遷を経、明治の年代に入つてからは長足の進歩を爲し、現に市及び市の附近には官立、縣立、市立の學校があり、外に私立の夜間中學、實科女學校及び技藝學校、幼稚園等もある。

市立圖書館は總曲輪に在り、明治四十二年行啓記念の爲め特に新設に係るものである、其の館は規模廣うして設備整ひ、蒐集の圖書も多いから常に閱覽者の輻輳を見て

居る、現館長は菊盛永造氏である。

【新聞】 社會の耳目、輿論の木鐸である新聞の富山に起つたのは、明治十五年四月越中新誌の發行を以て始めとする、爾來新聞の興廢起伏は嘗ならなかつたが、現に日刊新聞として多年の歴史を有して信用と勢力を保つものは富山日報、北陸日日新聞北陸タイムスの三新聞で共に總曲輪舊縣廳前附近にある、日報は明治十七年一月の創業で其の前身を中越新聞と稱し、今は民政黨の機關紙であり、北陸日日は自由黨の機關として明治二十二年四月創刊した北陸公論の後身で、引續き政友會の機關であつたが今は嚴正中立を標榜して居る、又北陸々々

イムスは明治四十一年十一月の創業で、創刊當初から嚴正中立の地位に在つて不偏不黨を標榜し、尙ほ名古屋に本社を有する新愛知の姉妹紙富山タイムスの日刊紙あり、此の外市内に於て新聞紙條例に依り發行する旬刊或は月刊の新聞雜誌類約二十の多きを算し、更に市外縣外の日刊新聞にして支局又は通信部を設置するもの九を數へる。

【兵事】 曾て日露戰役の當時に於て、中越健兒の名を世界列強に轟かしたは、第九師團管下の歩兵第三十五聯隊で、其の後身とも云ふべき歩兵第六十九聯隊が明治四十年始めて市民の宿望を達して五福に新設を見たが、大正十四年軍縮で廢止となり、

同時に金澤の三十五聯隊が光輝ある軍旗と共に移隊して來た、市の兵士は皆な此に收容せられ、入營に便なるのみでなく繁榮に資することも多い、同聯隊は前記の如く日露戦役に勇名を馳せたのみでなく、最近の上海事件に出勤して赫々の偉勳を樹てた、其の他陸軍官衛としては聯隊區司令部、衛戍病院、憲兵分隊がある。

【社寺】 古來北陸の人士は神佛崇敬の念に厚く随つて神社佛閣も尠くない、富山市に於ける神社は縣社二、郷社四、指定村社七、村社十一、無格社六、外に招魂社一計三十一社で、寺院では眞宗最も盛んにして其の本派五十四、大谷派二十七を算し、

日蓮十八、淨土十二、曹洞八、眞言三、臨濟二、時宗及天台各一、計百二十六ヶ寺、外に教會として天理八、日本メソヂスト二金光、日本基督、日本聖公、天主公の各教會が一宛ある。

【社會】 市の社會的施設としては、日用品を廉賣して生活上の緩和を圖る公設市場は山王町ミ東堤町の二箇所在り、山王町の方は大正八年開設し同十一年之に簡易食堂を附設したもので、東堤町の方は昭和五年の創設に係る、昭和八年中の賣上高は公市が二箇所を合せ四萬壹千六百四拾圓、食堂が七千九百六拾參圓である、又た職業紹介所は大正十一年以來山王町の公市事務

所内に設けられた、昭和八年中の事業狀況によると求人數五千六百二十一人、求職者數四千五人、就職者二千四百一人である、其の他兒童保護として勞働者の爲めに設くる託兒所が市立二、私立一、外に農繁期に際し季節的に設くるもの二箇所あるが共に良好の成績を示して居る、又市營住宅は市内七ヶ所に散在し、特種と甲乙丙丁の五種に分れ、百五十六戸ある、尙ほ鰥寡孤獨の貧民を救助し、無告の孤兒を養育する富山慈濟院は、財團法人組織で市郊外西中野村に在る。

【警備】 特有の南風吹荒ぶ富山では、古來大火災が多かつた、火事が江戸の花で

あると共に、小江戸の稱ある富山でもまた火事は名物の一つに數へられ、數千戸を焼失した大火の歴史が乏しくない、幕末の頃より明治時代にかけて、さうした富山市の大半を焦土と化した大火が四五回もある、此の辛い體驗に鑑み鋭意消防機關の改善に努めた、今日では八臺の自動車ポンプと蒸汽四臺、ガソリン一臺、腕力六臺のポンプの外、二臺の機械梯子自動車を有し、其の完備せること、六大都市を除いて他に多く其の例を見ない、富山消防組が優良消防組として内務大臣より表彰されたる亦宜なりと謂ふべく、現組頭は尾山三郎氏である、毎年の警備費は經常費のみに四萬圓内外を

支出してゐる。

【衛生】 富山市に病院の起つたのは、明治九年石川縣立病院の分院を設けたに始まるので、爾後經營者の交代に伴ふて幾たびか名稱を變じ、遂に四十年に至つて日本赤十字社富山支部病院となり、現在の東田地方町に新築移轉したのである、外に清水町には有毒娼妓を收容する縣立の清水病院があり、牛島には傳染病者を收容する市立の神通病院がある、又病院に従事する醫師の外市内に於て開業する醫師六十九人、齒科醫師三十二人、藥劑師百三十八人で、産婆が四十九人ある。

【電燈】 富山市に於て初めて電燈の點

せられたのは明治三十二年で、それが今の日本海電氣株式會社の前身である富山電氣の創立に依る、而して市内の電燈供給は今も猶も同社に於て獨り之を占めて居り、現在市内の電燈需用家數は一萬六千三十六戸此の點燈數が常時燈七萬三千八百九十二個で、一戸平均四個五強に當り、尙ほ市費で點する街燈が一千燭光のアーケ燈四十九基百燭光十六個、五十燭光二個、十燭光千百七十個に上り、此の外商店街の鈴蘭其の他の街燈も少くない、かうした照明施設は夜の市街を不夜城化し、流石に電氣王國を想はしめる。

【瓦斯】 之も日本海電氣の兼營事業で

其の創始は大正二年である、現在市内の需用家數は三千二百五十一戸、孔口數が燈用一千七百七十七口、熱用六千百十二口、合計七千八百三十三口に上り、需用益々旺盛ならむとする傾向にある。

【法曹】 富山地方裁判所に所屬し市内に在住する辯護士は十六人、公証人は三人で、執達吏は四人ある。

【興行場】 上り立町に大正座あり、餌指町に新富座、新富町に榮樂座あつて、共に多くの觀客を容るるに足る劇場で、總曲輪の帝國館、中町の松竹館、袋町の東洋館は共に常設の活動寫眞館であり、寄席喜樂席は殿町に在る。

【旅人宿】 市内の宿屋業者は旅人宿六十二軒外に木賃宿が七軒、下宿屋が八軒で昭和八年中の宿泊人員五萬一千八百四十人である。

【料理店】 市内の料理業者は百五十四軒で、櫻木町と清水の遊廓の内外に集合的となつて居る外、全市に亘り散在して居り大宴會向の宏壯なもの外、一夜の旅情を慰むる貸席料亭も尠くない、そしてこれ等の貸席も多くは櫻木町と遊廓の内外に集團して居る。

【貸座敷】 遊廓は市の東部清水町に在つて俗に東新地と云ふ、其の軒數四十二軒之れに附屬する娼妓六十五人あるが、紅燈

緑酒の間常に嬌聲艶語が絶えない。

【藝妓】 遊廓に属する藝妓は百餘人、これ等は廓内の置屋三十五軒に所属し、町藝妓は其の多くは舊遊廓であつた櫻木町に住し、此の一廓内にも十四軒の置屋があつて四十五人あり、共に檢番制度をこつて居る、容姿又は技藝を以て稱すべきものもあるが、遊子を醜弄するに妙を得たものもあるとか。

【カフェー】 遊廓や市内の料理屋の向ふを張つて近頃メキ／＼進出して居るものはかのカフェーである、現に市内に於けるカフェーは七十一軒を數へてジャズ氣分を街頭に漲らせ、之に屬してエロ氣分をそそ

つて居る女給が總數二百四十四人ある。

【民謡】 近來ラヂオに、蓄音機に依つて全國的に有名になつた越中「オワラ節」は、郷土民謡を代表するもの、其の本場は富山の西南四里蠶都の八尾町とする、由來は遠く約百八十年前寶曆の昔にありと傳へらるるが、大正の初年富山市に共進會の開催された際、餘興として演舞館に「小原踊り」を上演して喝采を博し夫れ以來殆んど破竹の勢ひで四方に流布さるるに至つた情緒由かしきもの、左に代表的の歌詞一二

歌 詞
小原々々は、ごごでもはやる、わけて此の町が、なほはやる。

來る春かぜ、氷がとける、うれしや氣儘に、開く梅。

囃 子

越中で立山、加賀では白山、駿河の富士山、三國一だよ。

【童謡】 之も二百餘年の歴史ある富山名物踊に「サンサイ踊り」と云ふのがある市内梅澤町圓隆寺に於て毎年七月十四、五兩日執行する祇園祭りの當夜、年頃の娘が三々伍々紅の裳を翻へしつゝ同寺境内に打集ひ、隨所に圓陣を作り「サイ、サンサイ、オンサノヨヨナイ」と節面白く謠ひながら袖振合せて踊る狀は夏季に於ける地方唯一の觀物である、其の踊りは富山城主佐々成

政の國替を喜んだ前田氏人心收攬策に起因するものと傳へられ、其の歌詞は佐々の世にあらずして前田氏を謳歌した唄の轉化したものだと言はれて居る、今歌詞の一つ二つを拾つて見ると左の如くで、「サイ、サンサイ」は此の歌詞の前後に唄ふものである。

- 一、踊り見に来て踊らんものは足にたんこべ出來てくれ。
- 一、盆が近くなる紺屋が焼ける盆の帷衣白で着た。
- 一、おらつちや小さい時起上り小法師寝たり起きたりころんだり。
- 一、姉か妹か鬚見りや分る妹銀杏で姉島田。

名勝舊蹟

富山市内及附近には名勝舊蹟が尠くない
更に立山、黒部を抱擁する中部山嶽國立公
園がある、茲に其の主なるものを紹介する

【富山城址】市の西北にあつて神通廢川の
南方にある、城の外濠は既に埋立てられて昔
の俤はないが、舊本丸周囲の濠溝、壘壁のみ
は今尙昔ながらに存在してゐる、此の城址は
今を距ること四百三年前即ち天文元年越中の
土豪水越越前守勝重の經始した所で、天正七
年^(三五三)佐々成政越中國の守護職として入城
してから壘を高うし濠を深うして城廓を改修
した、慶長二年^(三三八)前田利長守山城からこ

こに移り、同十年に至つて大に樓櫓を改造し
四方に石垣を繞らし、二重に濠溝を設け、一
たび有事に際せば神通及馳川の水を引いて市
内を浮城にすることを計り、其の要害堅固な
る北國屈指であると傳へられた、寛永十七年
^(三九五)前田利次富山に分封せられて更に城廓
を築き累代の居城となつた、廢藩置縣後或は
縣廳となり、公園となつて幾多の變遷を経て
今日に及んだもので、現に縣會議事堂等があ
る。

【神通川】古へ賣比河又は鶺坂河と稱し、
大伴家持の詠歌に依つて世に著れて居る、其
の源を飛驒の位山に發し、富山市を貫流して
東岩瀬港に注いで居る、縣内の流域約十四里
灌漑の利あつて、富山市の上下六里は舟楫の

便がある、産する所の鮭、鱒、鮎は名産とし
て聞え高く、明治四十五年御獵場編入せら
るゝ名譽を得た、神通河畔は風光明媚、前田
正甫の七子利卿の詠した神通八景の歌は今尙
世に傳はつて居る。

【吳羽山公園】富山市を距る西北僅かに十
餘丁、海拔二百六十四尺、平野の間に横はる
丘陵である、天正十三年^(三五五)豊臣秀吉の佐
々成政を討つべく精兵を率ゐて陣營を構へた
白鳥城址は山の一部分にある、仰いて四方を望
めば東南には立山連峰天空に聳え、北は富山
灣を控へ、雲烟縹渺の裡に能登半島を望み、
近くは神通川の清流を距て、富山市街を脚下
に望み、恰も一幅の活畫を見る様である、山
上に建つる皇儲駐駕の記念碑は、明治四十二

年 大正天皇 東宮に在せしとき行啓あらせ
給ひ、親しく風景を禱はせられた御野立跡
である、北方廣場には賣藥界の大恩人である
舊藩二代の英主正甫公の銅像が建設せられ一
段の風致を添へた、今や市街電車山麓に延長
せられて一般遊覽に便である。

【長岡廟所】吳羽山の北端に方る長岡山に
あつて、舊富山藩主前田家歴代の廟所である
境内廣潤、累世の墳墓儼然として並列する、
綠樹天に聳え、幽邃閑雅恰も仙境の如しであ
る、廟前に羅列する六百の燈籠は藩士の獻供
したもので、毎歳八月八日に祭典を擧げられ
此の獻燈悉く火を點じて頗る美觀である。

【磯部堤の櫻】市の西端神通川の清流に沿
ふ磯部堤上數百間、往年市内有志に依つて吉

野から移植されたもので、今や参差枝を交へ磯部堤の櫻として新名所となり、其の燦爛の候は蜿蜒花の隧道を現出し、之を遙かに望めば白雲羣鷺として宛然武藏の熊ヶ谷堤の櫻にも髣髴たるものあり、陽春花時招魂社を中心
に大に賑ふ、尙ほ同堤上には一樹の大榎あり幹の周囲十八尺、長さ四十尺餘、枝條参差數十尺に達して居る、天正年間佐々成政時代からあつて歴史上有名である。

【招魂社】 市の西端磯部にある、本縣出身者で靖國神社に合祀せられた殉國志士二千九百餘柱の英靈を祀つてある、大正二年の造營に係り、境内三千五百坪、本殿、拜殿等は頗る壯麗である、社地は富山藩二代の主前田正甫公の造られた磯部御庭の址である、當時庭

内には富士山、琵琶湖の模造などあり、茶の木山、卯花山あつて頗る美觀を極めたものであると云ふ。

【日枝神社】 市の中央山王町にある、祭神は大山咋神を祭り、天照大神、豊受大神を配祀してある、始め新川郡針原に在つたのを後に富山に遷してから神保、佐々兩城主の崇敬淺からなかつたが、前田利長卿富山に入城して産土神となし、社殿を造營して今の地に遷座したのである、明治三十二年縣社に列せられた、毎年六月の大祭は山王祭と稱へて市内は勿論、近郷よりの群集雜踏其の殷賑名狀すべからざるものがある。

【於保多神社】 市の東部柳町にある、前田家の祖先菅原道實公を祭り尙ほ前田利次、正

甫、利保の三公をも合祀してある、前田家累代の祈願所で、明治九年に縣社に列せられた寶物に菅公筆三社託宣書、一條兼良筆渡唐繪巻物等あり、後方境外地三千坪は東部市民の公園として参拜の傍ら散策するものが多い。

【光嚴寺】 市の東南五番町にある、曹洞宗の巨刹で富山藩主の菩提所である、現今の伽藍は貞享年間(二五〇)の建築で境内四千七百餘坪ある正甫公時代の碩儒南部草壽を始め南部三代の墓碑があり、老樹鬱蒼として天を蔽ひ市内屈指の淨域である。

【大法寺】 市の東南梅澤町にあり、日蓮宗の巨刹である、寛永三年(三二九)日行上人の創立で、元祿三年(二四五)中興の祖日徳上人の時二代藩主前田正甫公深く日蓮宗に歸依して本

寺を菩提所とした、従つて藩士も新に日蓮宗に改宗するもの多くあつた、文久三年(七二)の大火で、堂宇悉く灰燼に歸したが、後藩廳之を再建し漸く舊に復した、境内約二千八百坪老樹枝を交へて古色蒼然として居る、正甫公の寄附に係る名高き赤梅檀の釋迦立像を藏して居る。

【富山寺】 市内古鍛冶町に在り、眞言宗にして市最古の寺院である奈良朝時代神龜元年(七一〇)僧行基大和國より當國藤井村(富山築城以前の名)に弘通し來り、一寺を建立して藤居山富山寺と稱した、其の後故あり現地に移され、富山城の築城と共に普泉寺と改號したが、明治四十年四月元に復して再び富山寺と稱するに至つた富山の名は此の寺號に起原すと傳へらる

ることは沿革に於て述べた通りである。

【圓隆寺】 同じく市の東南梅澤町にあり、天台宗にして正覺山と號し、寛文六年(二六九)江戸上野寛永寺の末寺となり山號寺號共に輪王寺宮法親王より下賜されたもので、富山藩祖利次公祈願所とせらる、古來此の寺にて毎年七月十四五兩日行ふ祇園法會は年中行事の一として大に賑ひ、當日境内に少女群集して催はすサンサイ踊は有名である。

【兩別院】 眞宗本願寺派富山別院、大谷派富山別院は共に總曲輪にある、明治十三年東別院(大谷)が豊川町に建立せられ、其の後現地に移り、引續き西別院(本願)が建立されたもので、日々善男善女の參詣が絶えない、特に毎年西別院の一月十五日、東別院の十一月二十

七日に修行する七晝夜滿座法會は、俗に御滿座と稱して大に賑ひ、市の年中行事に數へらる。

【其他】 市から指定の史蹟名勝天然記念物及び主なる神社佛閣を擧げると

行在所御趾 (明治天皇) 東四十物町
(中田清兵衛氏宅)
御小休所御趾 (同上) 愛宕町
(小川龜次郎氏宅)
同 上 (同上) 五福(皇息軒)
廣徳館趾 (藩學校) 總曲輪
大手趾 (大手御門趾) 總曲輪
前田正甫公誕生地 鹿島町鹿島神社境内
千歳御殿趾 (第十代海主 前田利權隱居所) 櫻木町
神通舟橋趾 (舟を繋ぎ橋と) 七軒町、船頭町
神通新大橋 安野屋町

常閑翁之碑 (貞應元祖) 梅澤町妙國寺内
南部三代之墓 (薄の備者) 五番町光嚴寺内
佐々成政剃髮之趾 安養坊道心山
墨染櫻 (樹齡三百) 稻荷町
制札趾 西町
孝子久右衛門之碑 餌指町通坊前
雪見橋 向川原町
義仲宿陣趾 金屋
白鳥城趾 五福
大峪城趾 五福
鍛冶屋井 (名刀匠佐伯則重の宅址) 五福
新道 (明治天皇北狩御巡幸の際開鑿) 五福
御成道 (大正天皇英羽山御登山道) 新道の右手
中田文敬翁之墓 (算學家) 梅澤町極樂寺
大佛 南新町大信寺

五百羅漢 五稜長慶寺境内
供養塔 藤井町地先
郷社愛宕社 (祭神火之迦具上命 相傳武南方命) 藤井町
同 鹿島神社 (祭神武甕槌命) 鹿島町
同 白山神社 (同 白山姫命) 中野新町
同 神明宮 (祭神天照大神 相傳豐受大神) 千石町
村社稻荷神社 稻荷町
同 諏訪社 諏訪川原
同 白山社 西中野町
同 神明社 小泉町
同 神明社 清水町
同 熊野神社 五福
同 八幡社 安養坊
利生院 (日蓮宗) 梅澤町
來迎寺 (淨土宗) 同

海岸寺	曹洞宗	梅澤	町
清源寺	同上	南新	町
真興寺	眞言宗	梅澤	町
妙國寺	日蓮宗	同	町
立像寺	同上	同	町
本壽寺	同上	同	町
興國寺	臨濟宗	辰己	町
勝興寺支坊	眞宗本願寺派	餅指	町
持仙寺	眞宗常樂寺派	梅澤	町
長慶寺	曹洞宗	五福	町

【立山】 富山市を距る東南約十八里にある海拔三、〇三一米、千古不滅の雪を戴いて天空を摩する概あり、古來富士、白山と共に日本の三靈山と稱せられ、夙に本邦二十五勝の

詠になり 秩父宮殿下を始め、北白川、竹田兩若宮殿下の御登攀以來一層山岳家の憧憬の的となつて居る。

登山路としては先づ縣營鐵道南富山驛より千垣驛(軒五)に至るのであるが、其の間岩峯寺驛の西約二町に岩峯寺前立社壇あり、大寶年間の創建にかゝり元立山寺と稱せられ、立山権現として尊崇せられた、今は特別保護建造物に指定せられて居る、又終點千垣驛より南約十五町芦峯寺に芦峯寺大宮在り、雄山神社の攝社で元仲宮寺と稱し、立山の開祖佐伯有賴卿を祀る、有賴卿の木造今は國寶に指定せらる、立山を中心として登山案内の世話幹旋を爲す立山登山者案内組合も此の芦峯寺にある、千垣驛より約一里二十町にして藤橋に達

一として推され、今や國立公園に指定せらる頂上に鎮座する縣社雄山神社には天手力雄命伊邪那岐命を合祀してある、黎明濃霧の裡に五彩の異光を見ることあつて、之を彌陀三尊の來迎として渴仰して居る、社前に立つて四顧すれば眼界廣潤、富嶽、白山を始め甲信の諸山悉く一眸に集まり、一轉下瞰するときは原野平坦で河川屈曲、遙かに日本海の縹渺たる海波を認め、眞に天下の壯觀で、端なく崇嚴の感を起さしむるものがあり、かの不毛の高原彌陀ヶ原は實に世界的スキー場と稱されて居る、近時全國より登山するもの年々萬餘を算し、大正十四年 今上陛下未だ東宮に在はせしとき「たて山の空に聳ゆるを、しきにならへと思ふみよのすがたも」と立山をお

する、藤橋ホテル外旅館數軒あり、千垣、藤橋間には自動車の便がある、立山登路は此の藤橋にて三路に岐る。

- (イ) 稱名新道 稱名川の右岸を辿り、稱名瀧に至り對岸稱名坂を登り、弘法小屋に近く立山本道に合する。
- (ロ) 立山本道 藤橋を渡り千手ヶ原にて左に岐れ山路を登りブナ坂を経て彌陀ヶ原に達するものであるが、更に前年富山營林署によりて新に本道の稍南方森林帶中に新道開鑿せられた、捷徑たると風光に富むを以て推賞せらる。
- (ハ) 立山温泉路 藤橋より常願寺川の右岸に沿ひ、立山温泉に至り松尾峠を登りて彌陀ヶ原「追分」に至り立山本道に合するも

のと、立山温泉より御歌道を経て室堂に至るものとある。

【稱名瀧】 藤橋より稱名川に沿ひ遡ること約二里、熔岩流臺地の斷崖をなせる間に懸る落下實に一千三百五十尺、頗る壯觀を極む。

【彌陀ヶ原】 高さ一、四〇〇米より二、一〇〇米に及ぶ廣漠たる一大高原なり、夏季は一帶の草原中センターイクラ、立山ワタスゲ、其他の草花咲き亂れ花毛氈を見るが如く、冬季は此地より天狗平、國見岳、鏡石、室堂方面にかけて高低起伏多様のスロープを有する事として三、四、五月の候に於ける絶好のスキー場として夙に定評あり。

【立山温泉】 常願寺川上流湯川の傍に在り客舎數棟あつて優に五百人を容るゝに足る、

殊に宇奈月の小原臺は絶好のスキー場としてスキーファンの憧れの的となり、宇奈月温泉亦今や北陸有数の温泉場として知られ、四時賑ひを呈して居る。

【宇奈月温泉】 黒部鐵道の終點で、峽谷探勝に便利な日電専用の軌道電車此地より始まる、旅館多數あり、何れも内湯を有し、郵便局、銀行、醫院、劇場、佛教會堂、各種商店等があり、スキー場、プール、テニスコート遊園地の設備があり、黒部探勝の策源地である。

【鐘釣温泉】 宇奈月より約一五軒五、軌道一時間半にて達する、岩窟内の天然浴場は古來夙に名がある、收容人員七八十名、自炊部がある、亦黒部探勝の好策源地である、猿飛

立山登遊者は勿論中部山岳探勝者の策源地たると共に又休息慰安所である。

【黒部】 東に白馬の連嶺を貫ひ、西に立山の連峰を抱き、南は飛信越國境の三俣岳から起つて、北は愛本の地に至るまで南北二十里東西六里餘、消ゆることなき萬年雪の下に産聲を擧げて流れ合ふ八千八谷の溪流は、次第に集り落ち合ふて岩に激し、石に鳴り、其の豪宕なる水態に於て本邦河川中の白眉と稱せられてゐる、殊に七越谷附近、猿飛、鐘釣附近は奇抜なる山容と、豪宕なる水態とは天下の絶景を以て稱せられてゐる、省線三日市驛から分岐して黒部鐵道の宇奈月まで通じ、初夏新緑の候、満山錦を飾る晩秋に至るまで此の神秘境を探勝せんとするもの逐年増加し、

は鐘釣より約六軒五、其奇勝古來世に鳴る。

【蜃氣樓】 毎年春夏の候、富山灣の波穩かに風收まるの日、海上數里の間に或は森林、或は橋梁、或は城廓等諸種の幻影を見ることがある、そしてそれは縣内沿海地に往々現はるるのであるが、中にも魚津浦方面の出現最も多く、實に天下の奇觀である。

【螢鳥賊】 我邦に於て本縣滑川沿海のみに産する特産である、特種の發光器を有し、夜間之を漁獲するとき、煌々として恰も海中に無數のイルミネーションを點するの觀あり、其の漁期亦春夏の候で、蜃氣樓と共に富山灣の二大奇觀と稱せられ、季節には觀光客が尠くない。

銀行會社工場及官公衙、諸團體等一覽表

とやま
(終)

銀行會社

銀行

營業種目	本店資本金	拂込金	營業所	名稱
普通銀行	二,〇〇,〇〇〇	二,三,一五,〇〇〇	袋町	株式會社十二銀行
同	二,二五,〇〇〇	一,九二,二五〇	神通町	同 神通町派出所
同	二,六〇,〇〇〇	二,三六,〇〇〇	中町	株式會社第四十七銀行
貯蓄銀行	五〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	一番町	株式會社富山銀行
特殊銀行	九〇,〇〇〇	七,八六,〇〇〇	手傳町	同 橋北支店
普通銀行	五,〇〇〇,〇〇〇	四,二五,〇〇〇	向川原町	同 東部支店
			越前町	株式會社富山合同貯蓄銀行
			山王町	株式會社日本勸業銀行富山支店
			越前町	株式會社中越銀行富山支店

會社

株式

營業種目	資本金	拂込額	營業所	名稱
信託	一〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	二番町	富山信託株式會社
無盡	五〇〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	總曲輪	中越無盡株式會社
同	三〇〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	同	富山無盡株式會社
同	五〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	二番町	無盡公司共益株式會社
同	五〇,〇〇〇	全額	木町	勸業無盡株式會社
同	三,五〇〇,〇〇〇	二四〇,〇〇〇	星井町	日本海電氣株式會社
電燈、電力、瓦斯供給並電氣機具	一八〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	同	黑部川電力株式會社
電力供給	三,五〇〇,〇〇〇	三,二五〇,〇〇〇	七軒町	立山水力電氣株式會社
同	一,〇〇〇,〇〇〇	七五〇,〇〇〇	總曲輪	飛越電氣株式會社

普通銀行	一,六三三,五〇〇	九,五三三,〇〇〇	東四十物町	同	東支店
同	二,〇〇〇,〇〇〇	一,三五〇,〇〇〇	市外大町	同	堀川支店
同	一,〇〇〇,〇〇〇	九〇〇,〇〇〇	西町	株式會社高岡銀行富山支店	同
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	石倉町	同	富山支店石倉町派出所
同	一,〇〇〇,〇〇〇	三七,〇〇〇	砂倉町	株式會社岩瀨銀行富山支店	同
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	中野新町	同	中野支店
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	星井町	株式會社永守銀行富山支店	同
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	柳町	同	柳東支店
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	總曲輪	同	富山支店西部派出所
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	西堤町	株式會社滑川銀行富山支店	同
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	荒堤町	株式會社金澤貯蓄銀行富山支店	同
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	神通町	同	橋北支店
同	一,〇〇〇,〇〇〇	全額	木町	株式會社不動貯蓄銀行富山支店	同

藥品、賣藥、雜貨貿易	一、〇〇〇、〇〇〇	三七、八三〇	千石町	國際製藥株式會社
賣藥製造	五〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	梅澤町	株式會社廣貫堂
同、清酒釀造	二〇〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	千石町	丸三興業株式會社
賣藥製造	一〇〇、〇〇〇	三三、三三三	荒町	株式會社師天堂
賣藥、化粧品賣買	八〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	北新町	樂山堂製藥株式會社
賣藥製造、藥種問屋	二〇、〇〇〇	全額	鍛冶町	太陽藥品株式會社
賣藥製造	一五、〇〇〇	全額	總曲輪	富山藥劑株式會社
同	三〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	星井町	富山藥業株式會社
同	二〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	古鍛冶町	株式會社富山賣藥盛貫堂
同	一〇、〇〇〇	全額	山王町	株式會社富山精壽堂
同	一〇、〇〇〇	全額	同	富製藥株式會社
同、土地建物及賣藥製造	五、〇〇〇	全額	星井町	永生堂保全株式會社
機具賣買	七、〇〇〇	全額	小島町	富山酒造株式會社
清酒釀造	七、〇〇〇	全額	清水町	富山醬油株式會社
醬油、味噌釀造	七、〇〇〇	五、〇〇〇	清水町	富山醬油株式會社

輸出絹織物製造及燃糸 精練加工	一、〇〇〇、〇〇〇	全額	大泉町	株式會社富山縣織物模範工場
清涼飲料水製造	六〇、〇〇〇	全額	櫻町	翠田炭酸飲料株式會社
製水業、冷藏及保管倉庫業	六〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	八人町	富山冷藏製水株式會社
食料品調製	一〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	西三番町	富山食品株式會社
食料品製造販賣	四、〇〇〇	全額	五福	株式會社本折商店
木材賣買、市賣、委託販賣	一五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	櫻町	富山木材株式會社
魚問屋	三五、〇〇〇	九、七五〇	八人町	富山魚市株式會社
各地農產物蒐集販賣	一〇、〇〇〇	二、五〇〇	新富町	北陸線八百屋市株式會社
八百物問屋	三五、〇〇〇	全額	總曲輪	株式會社富山八百物市場
米穀取引	一〇〇、二〇〇	全額	殿町	株式會社富山米穀取引所
有價證券、土地不動產投資並 賣買、水道敷設、土木建築請負	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	總曲輪	中越土地建物株式會社
有價證券土地建物不動產投資並 二金錢貸付	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	同	蓮沼土地商事株式會社
同、賣藥販賣	五〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	越前町	株式會社長谷川眞正堂
有價證券賣買仲立	三〇〇、〇〇〇	七、五〇〇	五福	第一相互株式會社

有價證券買賣仲立	一〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	西三番町	大一證券株式會社
有價證券買賣、社債株式	一〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	荒	昭和證券株式會社
募集引受業務	一〇,〇〇〇	二,五〇〇	梅澤町	富山殖産株式會社
有價證券現物買賣	一〇,〇〇〇	全額	櫻木町	株式會社富山美術俱樂部
美術書畫、骨董、其他古物委託	二五,〇〇〇	全額	總曲輪	對岸貿易株式會社
販賣	二五,〇〇〇	全額	櫻木町	株式會社櫻街檢番所
委託買賣及賣買仲立	二五,〇〇〇	全額	總曲輪	株式會社櫻街檢番所
藝妓營業者、料理業者間營業仲立	三〇,〇〇〇	全額	櫻木町	株式會社櫻街檢番所
藥工品賣買	五〇,〇〇〇	一八,〇〇〇	神通町	四ツ屋物産株式會社
石炭、無煙炭、瓦斯コークス其他製造販賣	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	新富町	株式會社前田石炭商會
鐵物、非鐵物賣買、セメント製造販賣	二〇,〇〇〇	全額	鹿島町	加富礦業株式會社
農工機具製造販賣	五〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	太田口町	富山縣農産株式會社
旅客貨物輸送	三五,〇〇〇	三,五〇〇	櫻	富南鐵道株式會社
同	一八〇,〇〇〇	一,三八,〇〇〇	鴨島	越中鐵道株式會社
同	一八〇,〇〇〇	一,二六,〇〇〇	牛島	富山電氣鐵道株式會社
海運業	五〇,〇〇〇	三六,〇〇〇	總曲輪	北陸汽船株式會社

運送業	三〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	新富町	富山運輸株式會社
同	一〇,〇〇〇	二,五〇〇	神通町	株式會社富山共同荷扱所
自動車運輸附帶事業	一〇,〇〇〇	二,五〇〇	中野新町	笹津線運送株式會社
運送、遊覽地經營	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	鴨島	越鐵自動車興業株式會社
自動車運送	二〇,〇〇〇	全額	鍛冶町	株式會社丸五運輸自動車商會
自動車運輸附帶事業	四〇〇,〇〇〇	全額	上リ立町	富山電鐵自動車株式會社
和洋酒、罐詰類其他食料品製造運送業	五〇,〇〇〇	全額	旅籠町	丸福酒罐株式會社
住宅建築月賦請負	三〇,〇〇〇	七,五〇〇	南新町	富山住宅建築株式會社
土木工事請負、木材藥品其他販賣	五〇,〇〇〇	二,五〇〇	小島町	株式會社昭和組
土木建築、電氣工事請負測量設計、製圖	二〇,〇〇〇	五,〇〇〇	櫻	株式會社岡本工務所
電氣、鐵道業投資、同工事請負	五〇,〇〇〇	一,二五,〇〇〇	總曲輪	日本拓業株式會社
滿鮮開墾地賣買並附帶事業	三〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	同	三新工業株式會社
土木建築工事設計請負	二〇,〇〇〇	全額	西公文名町	富山物産織物株式會社
家屋賃貸及綿織物製造	二〇,〇〇〇	全額	中	株式會社岡部吳服店
家屋賃貸	一八五,〇〇〇	全額	中	株式會社岡部吳服店

新聞	五,〇〇〇	全額	總曲輪	株式會社富山日報社
印刷	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	同	株式會社富山印刷社
新聞及印刷	五,〇〇〇	全額	同	株式會社富山藥事新聞社
活動寫真常設館	五,〇〇〇	全額	袋	株式會社東洋館
活動寫真常設館	六,〇〇〇	全額	總曲輪	株式會社帝國館
足袋賣買	五,〇〇〇	一七,五〇〇	古鍛冶町	福助足袋富山縣販賣株式會社
森永製菓會社製品販賣	一〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	姥	森永製品富山縣販賣株式會社
資生堂製品化粧品販賣	一〇,〇〇〇	全額	覺中町	資生堂富山縣販賣株式會社
糞尿汲取	一五,〇〇〇	全額	五番町	株式會社衛生舍

合資

營業種目	出資額	營業所	名稱
陶器販賣、有價證券、投資、 生命保險代理店	一〇,〇〇〇	太田口町	合資會社吉田陶器店
吳服太物販賣	四,〇〇〇	中野新町	合資會社古川商店

硝子製品販賣	二五,〇〇〇	總曲輪	合資會社村山商店
吳服太物卸	二〇,〇〇〇	中	合資會社井正商店
度量衡器販賣	一七,〇〇〇	手傳町	合資會社牛島商店
診療及投藥	一五,〇〇〇	總曲輪	合資會社近郷醫院
浴場營業	一五,〇〇〇	同	合資會社總曲輪浴場
菓子及食料品販賣	一〇,〇〇〇	中野新町	合資會社總曲輪浴場
一般商品委託販賣	一〇,〇〇〇	總曲輪	富山菓子合資會社
質屋、古物仲立	一〇,〇〇〇	立	合資會社和同商會
藥種、賣藥製造	一〇,〇〇〇	愛宕町	合資會社水上商店
吳服太物販賣	一〇,〇〇〇	總曲輪	合資會社松本藥房
土木設計建築工事監督請負	一〇,〇〇〇	星井町	合資會社室三吳服店
土木建築外一般工務請負	一〇,〇〇〇	神通町	合資會社富山相互工務所
土木薪炭土地建物賣買	九,〇〇〇	鍛冶町	合資會社四ツ屋工務所
賣藥營業及同請負	八,〇〇〇	稻荷町	合資會社金山商店

味噌醬油釀造販賣、酒類販賣
 木材販賣、土木建築請負
 建築請負、木材販賣
 屑物、製紙原料等賣買
 賣藥請賣行商、化粧品販賣
 化粧品、文房具、雜貨卸
 木材防虫腐劑販賣
 精米、雜穀販賣
 製材、木材販賣
 雜貨及食料品販賣
 妙振出各種綿織物
 石炭販賣
 ゴム靴各種販賣
 雜穀販賣

七、九〇〇 千石町 合資會社 澁谷商店
 七、〇〇〇 小島町 合資會社 大政商店
 七、〇〇〇 五番町 合資會社 桑島商會
 七、〇〇〇 新富町 合資會社 大澤直和商店
 六、〇〇〇 西四十物町 合資會社 増山藥舖
 六、〇〇〇 衣服町 合資會社 櫻田本店
 六、〇〇〇 七軒町 クロムヒン木材防腐合資會社
 六、〇〇〇 室屋町 合資會社 大川商店
 六、〇〇〇 豐川町 合資會社 中村木材店
 五、〇〇〇 手傳町 飛越物産合資會社
 五、〇〇〇 北新町 合資會社 坂井商店
 五、〇〇〇 神通町 合資會社 黒田商店
 五、〇〇〇 袋町 合資會社 岡田ゴム商會
 五、〇〇〇 上り立町 合資會社 宮本商店

製綿、メリヤス類販賣
 製材
 質屋
 金物販賣
 綿糸販賣
 盆栽及造園材料販賣
 海産物委託販賣
 パン洋菓子製造販賣
 化粧品、雜貨販賣
 各種ゴム靴類販賣
 菓子製造販賣
 旅館業
 各種草履製造販賣
 木材建具指物販賣

五、〇〇〇 新富町 合資會社 森登茂三商店
 五、〇〇〇 安野屋町 合資會社 長瀬製材所
 五、〇〇〇 石倉町 合資會社 庄司商店
 五、〇〇〇 上り立町 合資會社 和泉金物店
 五、〇〇〇 東四十物町 合資會社 太田商店
 五、〇〇〇 總曲輪 合資會社 久郷一樹園
 五、〇〇〇 今木町 合資會社 カネマツ魚問屋
 五、〇〇〇 總曲輪 合資會社 マルト號本店
 五、〇〇〇 千石町 合資會社 大野屋商店
 四、七〇〇 神通町 合資會社 駒見ゴム工業所
 四、七〇〇 東田町 松井製菓合資會社
 四、五〇〇 新富町 合資會社 立山山館
 四、五〇〇 清水町 合資會社 梅田商店
 四、五〇〇 安野屋町 和田木材合資會社

陶器雜貨販賣
 牛乳販賣
 硝子瓶、硝子加工品製造販賣
 米及雜穀賣買並仲立
 宿屋
 酒、醬油、夏季飲料水販賣
 土木建築請負、諸物品委託販賣
 西洋洗濯
 吳服太物販賣
 米穀賣買、精米
 吳服太物販賣
 土木、建築請負
 運動具樂器販賣
 菓子販賣

四、三〇〇 船頭町 合資會社越野商店
 四、三〇〇 愛宕新町 合資會社五艘牧場
 四、〇〇〇 神通町 合資會社高田製瓶所
 四、〇〇〇 稻荷町 合資會社長崎商店
 四、〇〇〇 東堤町 合資會社澤屋旅館
 四、〇〇〇 西仲間町 合資會社田岸商店
 四、〇〇〇 稻荷町 合資會社金彌商店
 四、〇〇〇 豐川町 合資會社大久保クリーニング商會
 四、〇〇〇 仁右衛門町 合資會社稻波商店
 四、〇〇〇 大泉町 合資會社田近商店
 四、〇〇〇 東三番町 合資會社植田商店
 四、〇〇〇 安野屋町 合資會社山崎組
 四、〇〇〇 總曲輪 合資會社大原機械店
 四、〇〇〇 古鍛冶町 合資會社笹倉商店

日本アルプス原始水販賣
 石炭販賣
 自轉車製造販賣
 材木賣買、製板賃挽
 各種印刷製本請負、加工品販賣
 精米、雜穀、雜貨販賣
 農具製造販賣
 宿屋
 紙函販賣
 庭木、庭石、石燈籠販賣
 酒醬油販賣、製麵
 西洋雜貨品販賣
 書籍販賣
 麩製造販賣

四、〇〇〇 諏訪川原 合資會社寶重商會
 四、〇〇〇 新富町 合資會社今市商店
 四、〇〇〇 神通町 合資會社カネマル商會
 四、〇〇〇 今町 合資會社京田材木店
 四、〇〇〇 若木町 合資會社鹽野彌三郎商店
 四、〇〇〇 八人町 合資會社並木商店
 四、〇〇〇 長柄町 掛尾農具製造販賣合資會社
 三、七〇〇 五福 合資會社吳羽館
 三、五〇〇 神通町 合資會社富山紙器製造所並木商店
 三、五〇〇 櫻通町 合資會社野中商店
 三、二〇〇 神通町 合資會社小林兄弟商會
 三、〇〇〇 南田町 合資會社泉屋商店
 三、〇〇〇 越前町 合資會社螢雪堂書店
 三、〇〇〇 稻荷町 合資會社德升商會

米糊製造販賣	三、〇〇〇	梅澤町	合資會社	太陽堂
電氣機具、雜貨販賣	三、〇〇〇	平吹町	合資會社	長谷田商店
乳母車、電氣器具販賣	三、〇〇〇	砂町	合資會社	島山商店
吳服販賣	三、〇〇〇	太田口町	合資會社	尾畑商店
屋根板、薪炭販賣	三、〇〇〇	手傳町	合資會社	牛島板店
杞柳細工品製造販賣	三、〇〇〇	總曲輪	合資會社	柴田商店
漆器諸家具賣買	三、〇〇〇	東四十物町	合資會社	五島商店
製材	三、〇〇〇	神通町	合資會社	谷口製材所
酒醬油、飲料水販賣	三、〇〇〇	室屋町	合資會社	島谷商店
同	三、〇〇〇	太田口町	合資會社	黒田清商店
酒醬油、飲料水販賣	三、〇〇〇	清水町	合資會社	丸共商會
精米	三、〇〇〇	柳町	合資會社	福井商店
吳服太物販賣	三、〇〇〇	總曲輪	合資會社	岡本商店
印刷用インキ、諸材料販賣	三、〇〇〇	蛇曲町	合資會社	吉河商店

木材販賣	三、〇〇〇	西三番町	合資會社	横山商店
帽子販賣	三、〇〇〇	總曲輪	合資會社	金尾商店
狩獵用具販賣	三、〇〇〇	南田町	合資會社	河内商會
鐵工業	三、〇〇〇	神通町	合資會社	百谷鐵工所
硝子製品電氣器具販賣	三、〇〇〇	豊川町	合資會社	福岡商店
吳服販賣	三、〇〇〇	若木町	合資會社	堀田商店
板硝子販賣	三、〇〇〇	柳町	合資會社	上口板硝子商店
有價證券現物問屋	三、〇〇〇	衣服町	合資會社	金富商店
冷藏庫設備ニ依ル食料品保管其他	三、〇〇〇	總曲輪	合資會社	富山中央冷藏庫
漆器	三、〇〇〇	旅籠町	合資會社	有岡商店
吳服太物販賣	二、五〇〇	總曲輪	室合資會社	會社
菓及菓製品販賣	二、五〇〇	古鍛冶町	合資會社	立山商會
硝子製品販賣	二、五〇〇	木町	合資會社	高野商店
賣藥請賣營業、懸場帳賣買	二、五〇〇	山王町	合資會社	本マヌヤ救命堂

酒醬油、其他飲料水卸小賣
 荒物雜貨販賣
 豆腐類製造販賣
 酒醬油販賣
 木材販賣、建築請負
 製 綿
 洋太物類卸小賣
 味噌製造販賣、醬油販賣
 菓子製造販賣
 建具製造販賣
 八百物鹽干魚販賣
 酒類販賣並二仲立
 酒、醬油、味噌販賣
 吳服販賣損料貨

二、五〇〇 千石町 合資會社 坪田商店
 二、五〇〇 東堤町 合資會社 池上良商店
 二、五〇〇 星井町 合資會社 竹村商店
 二、五〇〇 中野新町 合資會社 荒木商店
 二、三〇〇 堀端町 合資會社 渡邊商店
 二、一〇〇 北新町 合資會社 松永綿行
 二、〇〇〇 總曲輪 合資會社 高原屋
 二、〇〇〇 神通町 合資會社 田村滋商店
 二、〇〇〇 長柄町 合資會社 紀文堂
 二、〇〇〇 石倉町 合資會社 狩野建具店
 二、〇〇〇 舟橋今町 合資會社 武內磯商店
 二、〇〇〇 東四十物町 合資會社 赤阪商店
 二、〇〇〇 東三番町 合資會社 豐田商店
 二、〇〇〇 七軒町 合資會社 岩崎商店

各種織物販賣
 壽司製造販賣
 蒲鉾製造販賣、魚類販賣
 干物、味噌、醬油販賣
 自轉車、金庫販賣
 裁縫洋服調製販賣
 編物、雜貨
 製材、木材販賣
 株式仲買
 家具、建具販賣
 石、活版印刷
 酒類、味噌販賣
 金庫販賣
 防水布塗料製造販賣

二、〇〇〇 南田町 合資會社 若林商店
 二、〇〇〇 總曲輪 合資會社 相生
 二、〇〇〇 小島町 合資會社 古木商店
 二、〇〇〇 總曲輪 合資會社 沖政商店
 二、〇〇〇 砂町 合資會社 上田商店
 二、〇〇〇 神通町 合資會社 早瀬洋服店
 二、〇〇〇 古鍛冶町 旭合資會社
 二、〇〇〇 畑中 合資會社 林製材所
 二、〇〇〇 西四十物町 合資會社 福富商會
 二、〇〇〇 東四十物町 合資會社 袋井商店
 一、九〇〇 古手傳町 合資會社 羽田商店
 一、八〇〇 南田町 合資會社 酒庄本店
 一、七五〇 西仲間町 合資會社 興業商會
 一、六〇〇 大工町 合資會社 共立商會

酒、醬油、味噌販賣	一、五〇〇	新富町	合資會社常川商店
酒、醬油、飲料水賣買並仲次	一、五〇〇	神通町	合資會社駒見商店
メリヤス、足袋、雜貨販賣	一、五〇〇	一番町	合資會社酒井洋服店
菓子小賣、喫茶	一、五〇〇	東四十物町	合資會社名月堂
吳服太物販賣	一、五〇〇	總曲輪	合資會社土田商店
自轉車附屬品販賣	一、五〇〇	覺中町	合資會社奧田商店
自轉車製造、修繕	一、五〇〇	神通町	合資會社イナヅマ商會
石材彫刻販賣	一、五〇〇	木町	合資會社伊藤商店
履物類製造卸小賣	一、五〇〇	總曲輪	合資會社藤井商店
移出賣藥營業	一、二〇〇	星井町	合資會社桑田商行
織物衣類販賣並同委託販賣	一、〇〇〇	東堤町	合資會社扇矢商店
酒、醬油販賣	一、〇〇〇	神通町	合資會社高見商店
ラヂオ電氣器具販賣	一、〇〇〇	古鍛冶町	合資會社橋本商店
和洋樂器販賣	一、〇〇〇	西堤町	合資會社松本樂器店

米穀、薪炭販賣	一、〇〇〇	諏訪川原	合資會社山田商店
金錢貸付	一、〇〇〇	石倉町	合資會社融和共生會
果實販賣	八〇〇	總曲輪	京屋合資會社
米穀販賣	八〇〇	南田町	合資會社鹽原商店
鹽干魚販賣	八〇〇	泉町	合資會社川西商店
糝、味噌製造販賣	六〇〇	星井町	合資會社谷村糝商店
屑物賣買	五〇〇	下金屋町	合資會社石本久三郎商店

合 名

營業種目	出資額	營業所	名 稱
砂糖、麥粉、諸油販賣、金錢貸付	二〇〇、〇〇〇	木町	合名會社須田藤次郎商店
藥種商	一〇〇、〇〇〇	中野町	合名會社福森藥房
醬油、味噌釀造販賣	七、五〇〇	櫻町	合名會社福澤屋釀造部
有價證券仲立	五、〇〇〇	總曲輪	石原合名會社

自動車運送	五、〇〇〇	荒町	富山タクシー合名會社
清酒釀造	五、〇〇〇	愛宕町	須田酒造合名會社
鹽元賣捌	四、〇〇〇	小島町	富山鹽元賣捌合名會社
砂糖、麥粉	四、〇〇〇	西三番町	淺田合名會社志滿屋商會
藥種、賣藥	三、〇〇〇	中町	合名會社寺田青陽堂藥房
保險代理、金錢貸借仲立	三、〇〇〇	泉町	密田合名會社
紙、印刷、製本、動不動產賣買及投資代理	三、〇〇〇	中町	合名會社若林商店
染料、石油	二五、〇〇〇	古鍛冶町	合名會社中村信商店
硝子、鏡類製造卸	二五、〇〇〇	衣服町	石原商事合名會社
圖書販賣	二〇、〇〇〇	東四十物町	合名會社富山縣國定教科書特約販賣所
吳服、古着、古道具	一〇、〇〇〇	總曲輪	合名會社島田商店
ゴム製品、醫療機械類	五、〇〇〇	一番町	合名會社大場兄弟商會
木材、製材販賣	五、〇〇〇	安野屋町	合名會社昭和製材所
藥工品販賣	五、〇〇〇	神通町	合名會社川住商店

支店出張所等

吳服太物、雜貨	五、〇〇〇	北新町	合名會社磯好商店
酒、醬油、味噌	五、〇〇〇	一番町	合名會社清水商店
靴、鞆製造販賣	五、〇〇〇	一番町	合名會社澤田兄弟商店
土地、建物賣買	三、七五〇	二番町	北陸土地建物合名會社
織物、編物、雜貨	二、五〇〇	太田口町	合名會社麥島商店
漁網硝子浮玉製造販賣	二、五〇〇	神通町	東洋漁網硝子浮玉合名會社
瓦製造機械製造	二、五〇〇	鹿島町	合名會社旭工業商會
菊蓐製造	一、〇〇〇	室屋町	合名會社桑田商店

營業種目

本店資本金
又ハ出資額

營業種目	金額	營業所	名稱
賣藥	四〇、〇〇〇	中長柄町	下間衛合名會社北陸支部
保險	一、〇〇〇、〇〇〇	覺中町	日本醫師共濟生命保險相互會社富山支所
同		南田町	日本簡易火災保險株式會社富山出張所

保 險 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

三〇〇〇,〇〇〇
二五〇〇,〇〇〇
五〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
二〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇
五〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇
五〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇

一 番 町
總 曲 輪
中 野 新 町
古 鍛 冶 町
袋 富 山 町
新 富 山 町
旅 籠 町
千 石 町
木 石 町
愛 宕 町
荒 田 町
南 田 町
南 田 町
大 工 町

日本生命保險株式會社富山出張所
日華萬歲生命保險株式會社富山出張所
東海生命保險相互會社富山出張所
千代田生命保險相互會社富山會所
第一生命保險相互會社富山支部
第一徽兵保險株式會社富山出張所
太平生命保險株式會社富山出張所
大同生命保險株式會社富山監督所
大正生命保險株式會社北陸支部
橫濱生命保險株式會社富山出張所
安田生命保險株式會社富山支店
富士生命保險株式會社北陸支社
帝國生命保險株式會社富山監督所
愛國生命保險株式會社富山出張所

保 險 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

一〇〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
二〇〇,〇〇〇
一,五〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇
二五〇,〇〇〇
一,〇〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
五〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
二〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
五〇〇,〇〇〇
三〇〇,〇〇〇
二〇〇,〇〇〇
一〇〇,〇〇〇

中 町
仁 右 衛 門 町
總 曲 輪
中 野 町
總 曲 輪
同 町
同 町
中 町
太 田 口 町
材 木 町
衣 服 町
南 田 町
總 曲 輪
同 町

共保生命保險株式會社北陸支店
有隣生命保險株式會社富山出張所
三井生命保險株式會社富山出張所
住友生命保險株式會社富山事務所
加藤組富山出張所
株式會社增田組富山出張所
佐藤工業株式會社富山出張所
林屋製茶合名會社富山支店
越中織物株式會社富山出張所
岩瀬興業無盡株式會社富山出張所
高岡無盡株式會社富山出張所
明正無盡株式會社富山出張所
日本電力株式會社富山出張所
野積川水力電氣株式會社事務所

洋服調製販賣	二〇〇,〇〇〇	木	株式會社伊狩洋服店
砂糖、石油、麥粉類	三〇〇,〇〇〇	中	高岡砂糖株式會社富山支店
酒販賣	三〇〇,〇〇〇	木	若鶴酒造株式會社富山支店
肥料販賣	一〇〇,〇〇〇	總	八尾肥料株式會社富山出張所
百貨店	一五〇,〇〇〇	西	株式會社宮市大丸富山支店
セメント	二五〇,〇〇〇	木	合資淺野セメント富山縣販賣店富山支店
石炭	三〇〇,〇〇〇	新	丸北北陸石炭合名會社富山賣炭所
同	三〇〇,〇〇〇	同	北國石炭株式會社富山賣炭所
同	一〇〇,〇〇〇	同	神保石炭合資會社富山出張所
製氷	二八,〇〇〇	神	金澤製氷株式會社富山工場
セメント	三〇〇,〇〇〇	新	秩父セメント株式會社富山支店
同	五〇〇,〇〇〇	總	七尾セメント株式會社富山出張所
火山灰	二〇〇,〇〇〇	新	北國火山灰株式會社富山支店
興信	一〇〇,〇〇〇	覺	東京興信所富山支所

興信	五〇〇,〇〇〇	南新町	帝國興信所富山出張所
營業種目	本店資本金 又ハ出資額	營業所	名稱
運送	一〇,〇〇〇	堀川町	堀川新合同運送株式會社
綿糸布製造	二七,〇〇〇,〇〇〇	同	日清紡績株式會社富山工場
米穀肥料販賣	二,〇〇〇	同	合資會社本田商店
絹織物製造販賣	三〇〇,〇〇〇	同	三和絹織株式會社
屠畜	一〇,〇〇〇	同	富山屠獸株式會社
米穀薪炭販賣	一,〇〇〇	同	合資會社大井商店
米穀賣買、精米	一,五〇〇	同	合資會社川口商店
麻糸、紡績	二〇〇,〇〇〇	山室村	第一ラミー紡績株式會社
運送	一〇,〇〇〇	同	山室運送株式會社
同		同	丸十運送相互株式會社

醫療藥品製造	一五,〇〇〇	山室村	富山製藥株式會社
鋸齒車製造	一,五〇〇,〇〇〇	同	不二越鋼材工業株式會社
和洋傘製造販賣	一,二〇〇	同	關合資會社
製材	五,〇〇〇	同	富山製材株式會社
煉炭製造	一,〇〇〇	同	富山煉炭株式會社
賣藥製造	五,〇〇〇	同	合資會社齊藤商店
化學工業用品製造	三,六〇〇,〇〇〇	同	日本曹達株式會社富山工場
鐵道運輸	一,〇〇〇,〇〇〇	奧田村	富岩鐵道株式會社
絹織物製造	二五〇,〇〇〇	同	東洋絹織物株式會社
機械製作販賣	五〇〇,〇〇〇	同	株式會社本江機械製作所
運送取扱	一〇〇,〇〇〇	同	富山合同運送株式會社
保險	二〇〇,〇〇〇	同	東洋生命保險株式會社富山出張所
製磷	五,〇〇〇	同	合資會社金山電化工業所
ミルクキヤラメル製造	五,〇〇〇	同	北陸製菓合資會社

麻糸紡績、布ホース製造	三,〇〇〇,〇〇〇	奧田村	大正製麻株式會社富山工場
鐵工業	二,〇〇〇,〇〇〇	同	株式會社佐藤工業所鐵工部
賣藥請賣營業	三,〇〇〇	同	日滿賣藥合資會社
食料品販賣	二,〇〇〇	同	合資會社ヤマト屋商店
屋根板製造販賣	二,〇〇〇	同	合資會社富士旭商店
材木	五,〇〇〇,〇〇〇	同	飛州木材株式會社富山出張所
土木建築請負	一,〇〇〇,〇〇〇	同	中央土木株式會社富山出張所

主要工場

名	職稱	男	女	計	所在地	製品
株式會社富山縣織物模範工場	男	七	四	五	大泉町	絹織物
株式會社廣貴堂	男	五	四	五	梅澤町	賣藥
株式會社師天堂	男	四	五	五	荒町	同

富山藥劑株式會社	藻谷印刷所	高畠商會印刷部	高見活版所	富山硝子製造堂	扇原硝子製造所	合資會社村山商店硝子工場	河邊製材所	日本煉乳製造所	藤田印刷所	石黒膏藥製造所	富製藥株式會社	原田オフセット印刷所
二	六	三	三	三	三	四	〇	三	七	五	一	四
三	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	六	六	三	三	三	四	〇	三	〇	三	五	四
總曲輪	木曲輪	二番町	袋盤町	常盤町	新富町	總曲輪	新富町	下金屋町	神通町	鐵砲町	五番町	殿山王町
賣藥	印藥	同	同	製罐弑力印刷	藥瓶	同	製材	鐵工	煉乳	印刷	製油並膏藥	賣藥

株式會社伊藤洋服所富山支所工場	安倍印刷所	堀井印刷所	朝日印刷所	合名會社川住商店	桑山商會	袋谷鐵工所	和泉鐵工所	室田ゴム品製造工場	三和絹織株式會社	日清紡績株式會社富山工場	大正製麻株式會社富山工場	金山電化工業所	佐藤工業株式會社鐵工部
五	五	二	六	四	二	二	二	四	三	三	三	六	九
一	一	一	一	九	一	一	一	九	三	五	三	一	一
五	五	二	七	三	二	二	二	三	二	四	四	六	九
木曲輪	總曲輪	一番町	神通町	柳町	稻荷町	同	同	堀川町	同	同	奧田村	同	同
洋服	印刷	同	同	藥繩製造	製罐	鐵工	同	ゴム品	人絹	紡績	麻織	黃燐	鐵工

富山化學研究所	六	一	六	奧田村	青化ナトリウム 黄血加里
安井機械製作所	一	三	三	同	人絹
株式會社本江機械製作所	三	一	三	同	鑄造製罐
第一ラミイ紡績株式會社	三	九	二	山室村	紡績
金岡製釘工場	二	一	二	同	製釘
日本曹達株式會社富山工場	三	二	二	同	金屬曹達
不二越鋼材工業株式會社	三	一	三	同	金屬熱處理
富山製材株式會社	五	五	五	同	製材

富山商工會議所

職員

富山市總曲輪
電話四一六一・四一六二
(定員三十名) (印重要商工業代表者)

保險代理	西堤町	中田辰太郎	三、五五
藥種賣藥	太田口町	富川保太郎	三、三九〇
賣藥	辰己町	島喜三郎	二、八〇〇
陶磁器	總曲輪	太田貞一郎	四、〇二
旅人宿	同	舟山滋	四、七九
鐵道運輸	千石町	高田甚四郎	三、三二
團扇製造、自動車運送	五番町	吉尾良次郎	二、三三
荒物	諏訪川原	池上由藏	二、七三
銃砲火藥	總曲輪	松田順太郎	二、七三

製藥
金物
吳服太物卸
同
賣藥、周旋
米穀卸
酒造
生魚問屋
乾物問屋
藥種
金錢貸付
保險代理
洋服、羅紗
貯雪製氷、自動車運送

南田町 二、三五
總曲輪 二、七〇
衣服町 三、〇三
古鍛冶町 三、〇三
殿川町 三、七三
堀川町 二、九三
稻荷町 五、一八
小島町 四、八九
荒島町 四、六八
袋輪町 五、〇三
總曲輪 二、九三
荒島町 三、〇八
西島町 三、六六
小島町 二、三〇

吉本理八郎 二、三五
吉川義三郎 二、七〇
岩田伊太郎 三、〇三
吉本義太郎 三、〇三
永盛次郎 三、七三
本盛次郎 二、九三
小林嘉藏 五、一八
北島良助 四、八九
廣田傳次郎 四、六八
金岡又左衛門 五、〇三
永井庄一郎 二、九三
犬島滋次郎 三、〇八
山口仙太郎 三、六六
豐岡太郎 二、三〇

西洋料理
賣藥
銀行
金庫
絹織物製造
電氣
賣藥

總曲輪 二、八五
蛇曲町 二、五一
總曲輪 二、八五
古鍛冶町 四、四二
東四十物町 二、八六
千石町 四、七五
愛宕町 四、九〇

大杉橋吉 二、八五
堀田茂一 二、五一
佐倉八十 二、八五
田中重次 四、四二
• 株式會社富山縣織物模範工場
• 代表者 碓井榮太郎
• 日本海電氣株式會社代表者
新田甚兵衛 四、九〇
內山兵衛 四、九〇

顧問

輸出賣藥
日本海電氣株式會社取締役社長
砂糖麥粉石油卸、諸油製造
吳服太物卸

千石町 二、六七
仁右衛門町 三、〇八
木野町 二、〇八
中野町 二、二六

藤井諭三 二、六七
山田昌作 三、〇八
須田藤次 二、〇八
藤井佐七 二、二六

事務局

理 事 會 同 事 記 補
書 記 同 同 同 同
書 記 補

大 間 知 喜 一 郎
島 田 榮 太 郎
宮 田 俊 勝
田 知 花 潔
黑 澤 善 四 郎
梅 澤 直 義
中 川 勝 雄

吳服太物卸
北陸瀛船株式會社取締役社長
越中鐵道株式會社取締役社長

役員

衣 服 町
婦 員 郡 百 塚 村

會 頭 副 會 頭 常 議 員
同 同 同 同 同 同 同 同

越中鐵道株式會社代表者

金 岡 又 左 衛 門
高 田 甚 四 郎
永 井 庄 一 郎
廣 田 傳 次 郎
犬 島 滋 次 郎
中 田 辰 太 郎
北 島 良 助
太 田 貞 一 郎
松 田 順 太 郎

大 間 知 喜 一 郎
石 原 庄 太 郎

富山市商工業組合聯合會

(富山市總曲輪
富山商工會議所内)

役員

會長	吳服大物卸商	中野	藤井	佐七	二、二六
副會長	和洋紙商	平吹	近江	虎次	二、〇九
理事	吳服大物卸商	東三番	三井	治平	五、〇五
	乾物問屋	荒	廣田	傳次	四、六八
	吳服大物商	東四十物	上田	與一	三、二九
	陶器商	總曲輪	太田	貞一	二、八〇
	和洋小間物商	一番	島倉	彦作	四、五七
組合名	富山板金加工工業	代表者	星井町島精一郎		
事務所所在地	星井町島				
富山	富山	富山	富山	富山	富山
鼻緒商	履物商	米穀同業	時計商同志	陶器商	料理業
向川原町 矢郷小平	新川原町 奥田吉次	總曲輪 黒田等	同 確井榮太郎	同 太田貞一郎	同 櫻木町 八木宗太郎
同 藤井榮太郎	同 藤井喜平	同 黒田與平	同 金岡忠治	同 村山直太郎	同 豊川町 株友會
同 平吹町 近江虎次郎	同 東三番町 柳原力次郎	同 西堤町 永森菊次郎			
富山	富山	富山	富山	富山	富山
洋服同業	足袋莫大小商	煙草小賣	疊工	種油製造業	建築具業
西町 水上喜三郎	諏訪川原 新保健太郎	北新町 長越仙太郎	蛭町 筒間尙彦	中野町 三村金太郎	小島町 堀井新四郎
同 堀井新四郎	同 藤井政次郎	同 岩田清一	同 新川原町 横山吉三郎	同 南田町 志甫豊次郎	同 東田町 松井良太郎
同 澤田義友	同 久世伊平	同 梅澤町 中田清兵衛			

富山	富山	富山	富山	富山	富山
鼻緒商	履物商	米穀同業	時計商同志	陶器商	料理業
向川原町 矢郷小平	新川原町 奥田吉次	總曲輪 黒田等	同 確井榮太郎	同 太田貞一郎	同 櫻木町 八木宗太郎
同 藤井榮太郎	同 藤井喜平	同 黒田與平	同 金岡忠治	同 村山直太郎	同 豊川町 株友會
同 平吹町 近江虎次郎	同 東三番町 柳原力次郎	同 西堤町 永森菊次郎			
富山	富山	富山	富山	富山	富山
洋服同業	足袋莫大小商	煙草小賣	疊工	種油製造業	建築具業
西町 水上喜三郎	諏訪川原 新保健太郎	北新町 長越仙太郎	蛭町 筒間尙彦	中野町 三村金太郎	小島町 堀井新四郎
同 堀井新四郎	同 藤井政次郎	同 岩田清一	同 新川原町 横山吉三郎	同 南田町 志甫豊次郎	同 東田町 松井良太郎
同 澤田義友	同 久世伊平	同 梅澤町 中田清兵衛			

同	富山古道具商	古鍛冶町	鈴木政次郎
同	同古着商	東堤町	滿岡正之助
同	同小間物商	一番町	島倉彦作
同	同小間物卸商	西三番町	成田松次郎
同	同小間物化粧品小賣商	泉町	安井榮次郎
同	同吳服卸商	中野町	藤井佐七
同	同吳服小賣商	太田口町	上田與一郎
同	同水販賣業	中町	増山榮吉
同	同昆布商	越前町	藤井忠次郎
同	同電機商	東四物町	志村甚太郎
同	同荒物商	二番町	野村國納
同	同製粉業	古鍛冶町	島川長兵衛
同	同材木業	櫻町	福井清之
同	同指物業	越前町	廣野政次郎
同	同麵類業	一番町	高橋幸太郎
同	同製綿業	上金屋町	大郷金次郎
同	同綿絲商	中町	小谷忠助
同	同醬油製造	桃井町	沖田正近
同	同醬油味噌製造	千石町	澁谷佐一郎
同	同酒類醬油販賣	手傳町	笹倉虎次郎
同	同富山縣組合富山支部	袋町	石黒喜一郎
同	同富山縣組合富山支部	一番町	瀨川朝秀
同	同漆器業	西三番町	佐伯治三郎
同	同木炭商	中野新町	池崎清次郎

組合

商業組合

富山豆腐商業組合	稻荷町
富山縣信用組合聯合會	總曲輪
富山縣購買販賣組合聯合會	新富町
富山市信用組合	總曲輪
富山同仁信用購買組合	千石町
富山賣藥信用組合	鍛冶町
賣藥原料購買組合	千石町

神通川漁業信用販賣組合	總曲輪
富山牛乳販賣組合	相生町
富山蒲鉾購買販賣組合	八人町
富山ミシン裁縫購買販賣利用組合	堀端町
購買販賣利用吳羽信用組合	五福
神通川土石販賣利用組合	總曲輪
鴨島土石販賣利用組合	鴨島

重要物産同業組合

富山縣輸出絹織物同業組合	大泉町
富山縣賣藥同業組合	千石町
同富山支部	總曲輪
富山肥料商同業組合	同
富山米穀同業組合	同

市立柳町尋常小學校	柳町	私立日枝幼稚園	山王町
市立愛宕尋常小學校	神通町	私立大谷幼稚園	西四十物町
市立清水町尋常小學校	清水町		(44)
市立櫻谷尋常小學校	田刈屋		
市立吳羽尋常小學校	五番町		
市立立幼稚園	五番町		
私立富山實科女學校	總曲輪		
本願寺公認富山德風女學校	諏訪川原		
大谷女子學校	總曲輪		
私立女子技藝學校	諏訪川原		
私立富山縣自動車學校	安野屋町		
私立青葉幼稚園	總曲輪		
私立德風幼稚園	同		
私立上立町幼稚園	上立町		

富山縣商工會聯合會	縣廳內	富山縣體育協會	縣廳內
富山縣對岸貿易拓殖振興會	同	日本海員掖濟會富山支部	同
富山縣海外移民協會	同	產業組合中央會富山縣支部	同
富山縣海外移住組合	同	大日本蠶糸會富山支部	同
富山縣工場協會聯合會	同	帝國軍人後援會富山支部	同
同 富山支部	警察署內	帝國飛行協會富山地方本部	同
富山縣自動車協會	縣廳內	國立公園協會富山支部	同
同 富山支部	警察署內	大日本武德會富山支部	同
富山縣教育會	總曲輪	大日本私立衛生會富山支部	同
富山市教育會	總曲輪校內	大日本消防協會富山縣支部	同
育英社富山支社	手傳町	富山縣消防義會	同
富山縣米穀協會	縣廳內	帝國水難救濟會富山縣委員部	同
富山市出品協會	陳列所內	日本赤十字社富山支部	總曲輪
富山縣社會事業協會	縣廳內	同 富山支部病院	東田地方町

愛國婦人會富山縣支部

總曲輪

新聞社

富山日報社
北陸タイムス社
北陸日日新聞社
富山タイムズ社
高岡新聞富山支局
越中新聞富山支局
北國新聞富山支局
大阪毎日新聞富山支局
大阪朝日新聞富山通信部
報知新聞富山支局
讀賣新聞富山支局

總曲輪

劇場及常設館

新愛知新聞富山支局
名古屋新聞富山支局
櫻町
上リ立町
餌指町
新富町
總曲輪
袋町
中町
殿町
西四十物町

料理店及貸席

北越館
富山ホテル
富山驛前ホテル
富山館
高松館
竹島屋
八百松支店
山百松支店
山村旅館
澤屋旅館
眞井田館
笹井旅館
稻荷旅館
奥田乃湯
(兼料理)

櫻木町
富山驛前
總曲輪
旅籠町
中野町
總曲輪
仁右衛門町
東堤町
總曲輪
同
郊外稻荷
同
奥田

八清樓
富山ホテル
東洋軒
東洋軒
奧田家
村井樓
蟋井亭
有合亭
き合亭
淀川
みり川
洲崎
岡田
西仲間町
櫻木町
櫻木町
總曲輪
石倉町
櫻木町
櫻木町
總曲輪
同
同
同
同
同
清水町

ス 銀 金 松 タ オ 東 金 勝 笑 若
 タ な イ ラ ア カ 見 乃 乃
 | 嶺 ベ 屋 | ラ ス | エ | 八 家 家 家

東 古 總 仁 西 衣 東 櫻 泉 同 清
 四 鍛 曲 右 三 服 四 櫻 泉 同 清
 十 冶 輪 衛 番 門 十 町 町 町 水
 物 町 輪 門 町 町 物 町 町 町 町

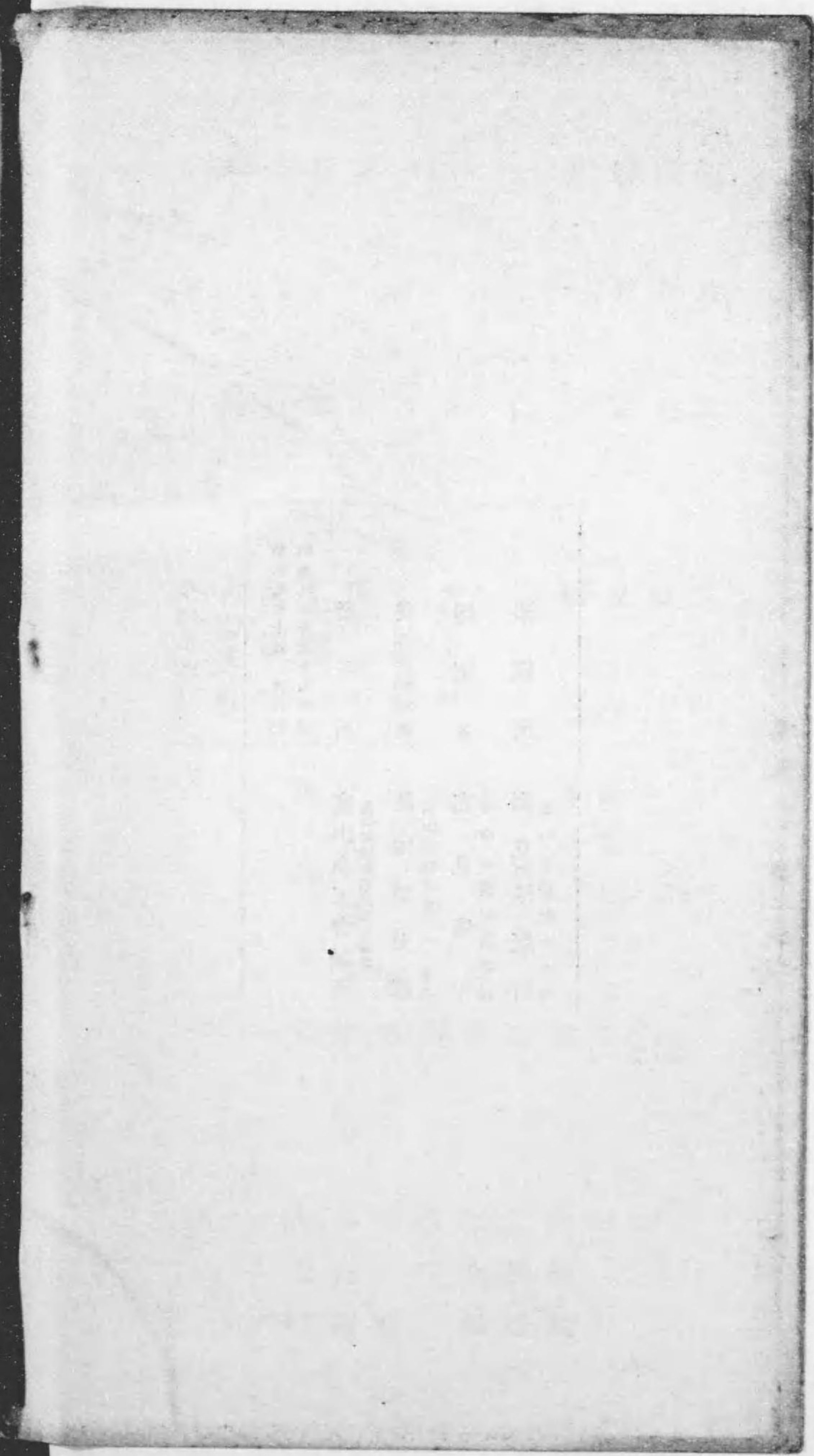
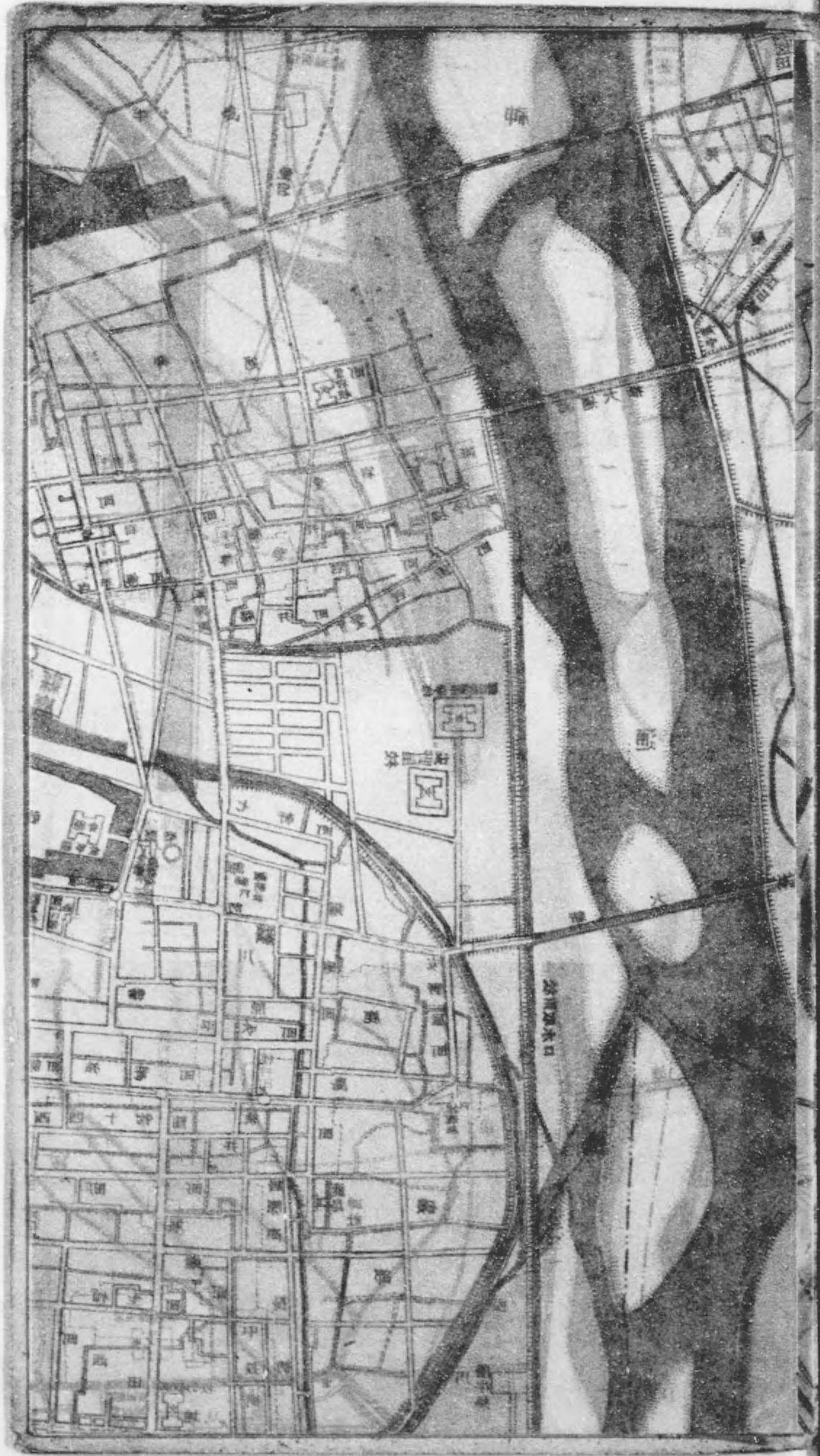
簡 小 宮 三 金 松 丸 岡
 易 公 市 好 な 岡 三 部
 食 園 大 食 べ 岡 食 地
 堂 食 丸 食 食 食 下
 堂 堂 食 堂 堂 食 食
 堂 堂 堂 野 部 堂 堂 堂

山 小 西 同 總 二 總 中
 王 公 曲 曲 番 曲
 町 園 町 輪 町 輪 町

昭和九年十月一日印刷
 昭和九年十月五日發行

發 行 所
 發行兼編輯者
 印 刷 者
 印 刷 所

富 山 商 工 會 議 所
 富 山 市 櫻 輪 四 五 番 地 一
 島 田 榮 太 郎
 富 山 市 桃 井 町 一 二 番 地
 高 見 清 平
 富 山 市 袋 町 九 番 地
 高 見 活 版 所
 富 山 市 袋 町 九 番 地



富山全市圖

富山縣管内圖



露光量違いの為重複撮影

富山全市圖

富山縣管内圖



長岡村

上

西

負吳

新

川

神

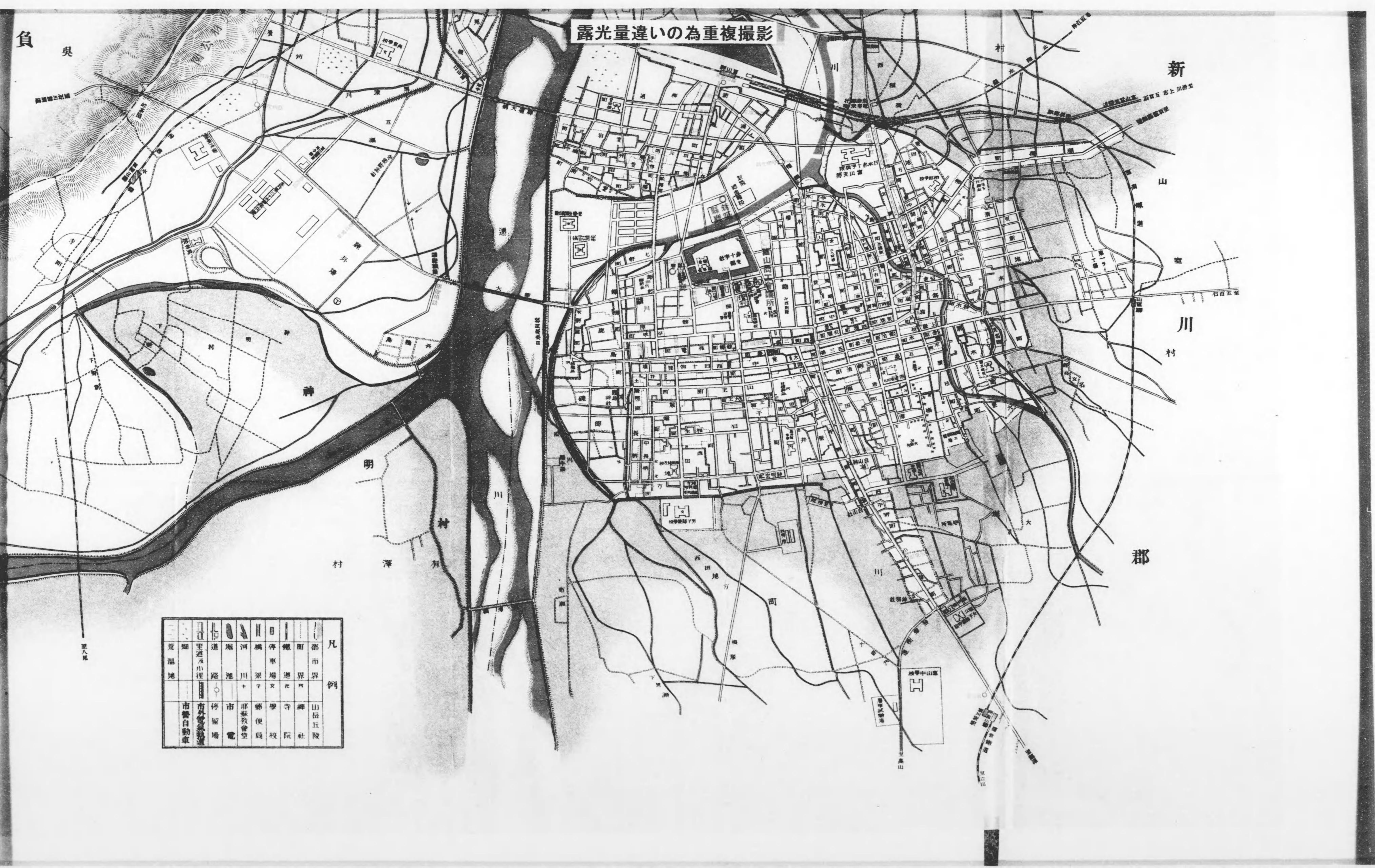
露光量違いの為重複撮影



富山縣管内圖



露光量違いの為重複撮影



凡例	市界	郡界	町界	鐵道	停車場	橋	河川	池	通	里道及小徑	畑	荒地
山岳丘陵	神社	寺院	學校	郵便局	市電	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界

負

新

川

郡

明

村

村

村

村

川

川

村

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

露光量違いの為重複撮影

負 吳

新

川

郡

凡例	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
市界自動車	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界	市界



露光量違いの為重複撮影

負 吳

羽

郡 村

神

明

村

凡	例	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電
凡	例	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電
凡	例	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電
凡	例	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電
凡	例	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電	市外電軌線	市電





終

